3-068-186-**03** (2)

デジタルスチルカメラ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

Cyber-shot
Digital Still Camera

DSC-P30/P50

必ずお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像などの撮影内容の補償については、ご容赦ください。

画像の互換性について

- 本機は、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格"Design rule for Camera File system"に対応しています。
  統一規格に対応していない機器(DCR-TRV900、DSC-D700、DSC-D770)で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影／修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

本機に振動や衝撃を与えないでください！

誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、"メモリースティック"が使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。

液晶画面、液晶ファインダー(搭載機種のみ)およびレンズについて

- 液晶画面や液晶ファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心してお使いください。
- 液晶画面や液晶ファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。

電池についてのご注意

単3型アルカリ電池は緊急用としてご使用ください。電池でご使用になる際は、86ページをご覧ください。

湿気にご注意ください！

雨の日などに屋外で撮影するときは、本機を濡らさないようにご注意ください。結露が起きたときは、71ページの記載に従って結露を取り除いてからご使用ください。

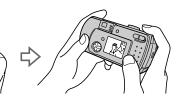
バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピーをおとりください。

日光および強い光に向けて本機を使用しないでください！

目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。

長時間使用時のご注意

本体が熱くなることがありますのでご注意ください。

こんなことができます

撮影した画像をすぐに確認できます

静止画を撮影する：16ページ
静止画を再生する：25ページ
画像を消す：61ページ

パソコンに取り込めます

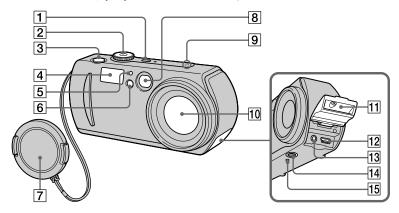
撮影した画像を付属のUSBケーブルを使ってパソコンに取り込み、パソコンのソフトウェアを使って、画像を加工したり、Eメールに添付したりできます。

接続したパソコンで画像を見る：27ページ
Eメールに添付する画像を撮影する：47ページ

目的に合わせて動画を撮影できます（MPEGムービー、またはクリップモーション）

動画を撮る：23ページ

状況に応じた撮影方法を選べます

ホームページに載せるアニメーションを撮影する：50ページ
書類などの文字を撮影する：48ページ
画像に圧縮をかけないで撮影する：49ページ

目次

準備

基本操作

応用操作

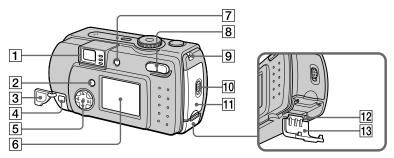
応用操作の前にお読みください

その他

各部のなまえを確認する

使いかたの説明は、（ ）内のページにあります。

1 POWER（パワー）**ボタン／ランプ**（12）
本機の電源を入れるには、このボタンを1秒程度押します。

2 **モードダイヤル**（15、38）
：夜景モード撮影
：静止画撮影
：画像再生／編集
：動画／クリップモーション撮影
SET UP：セットアップ（69）

3 **シャッターボタン**（16、24）

4 **フラッシュ**（21）

5 **調光窓**
フラッシュ撮影時にふさがないでください。

6 **セルフタイマー／AFイルミネーター**（20、22）

7 **レンズキャップ（付属）**
撮影前に必ず取りはずしてください。

8 **ファインダー窓**

9 **ブザー**

10 **レンズ**

11 **端子カバー**

12 USB（ユーエスビー）**端子**（29、31）

13 VIDEO（ビデオ） OUT（アウト）**端子**（61）

14 **三脚用ネジ穴（底面）**
ネジの長さが5.5 mm未満の三脚をお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

15 RESET（リセット）**ボタン**（74）

各部のなまえを確認する（つづき）

ストラップの取り付け方

1 **ファインダー**

セルフタイマー／録画ランプ（赤）

エーイーエーエフ
AE/AF**ロックランプ（緑）**

チャージ
⚡/CHG **（フラッシュチャージ／バッテリーチャージ）ランプ（オレンジ）**（18）

2 メニュー
MENU**ボタン**（39）

3 ディーシー イン
DC IN**カバー**（9、11）

4 ディーシー イン
DC IN**端子**（9、11）

5 **コントロールボタン**（15、38）

6 **液晶画面**

7 エルシーディーオン オフ
DISPLAY/LCD ON/OFF**ボタン**（18）

8 **ズームボタン（再生時はインデックスボタン）**（19）

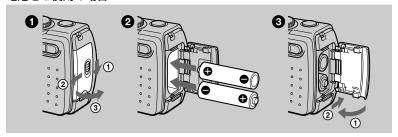
9 **リストストラップ／レンズキャップ取付部**

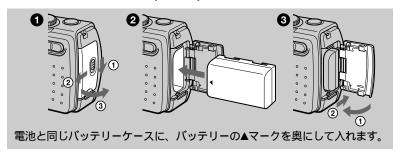
10 オープン
OPEN**つまみ**

11 **バッテリーカバー**

12 **アクセスランプ**（14）

13 **“ メモリースティック ”カバー**

電源を準備する

付属の電池または別売りのバッテリーを本体に入れる

本機では、以下の電池をお使いいただけます。
- 単3型アルカリ電池　2本（付属）
- "インフォリチウム"（Sシリーズ）バッテリー（NP-FS11）　1個（推奨・別売り）
- 単3型ニッケル水素電池　2本（別売り）
- 単3型ニッカド電池　2本（別売り）

より長い時間本機をご使用いただくには、"インフォリチウム"バッテリーのご使用をおすすめします。なお、この取扱説明書で「電池」と表記されている場合は、「単3型アルカリ電池」を意味します。

電池をご使用の場合

インフォリチウムバッテリー（別売り）をご使用の場合

電池と同じバッテリーケースに、バッテリーの▲マークを奥にして入れます。

❶ バッテリーカバーを開ける。

OPENつまみを矢印の方向にスライドさせながらカバーをずらして開けます。

❷ 電池を入れる。

単3型電池2個の＋極と－極を、バッテリーケース内部の⊕⊖表示に合わせて入れます。単3型電池の＋極と－極をまちがえないようにご注意ください。

❸ バッテリーカバーを閉める。

カバーで電池を押し込みながら閉じます。カバーがカチッというまできちんと閉じてください。

バッテリーを取り出す

本機のバッテリーカバー側を上に向けてカバーを開き、電池を取り出してください。 取り出すときは、バッテリーが落下しないようにご注意ください。

パワーセーブモードについて

本機の電源に電池をご使用になる場合は、［SET UP］でパワーセーブモードを「入」に設定してご使用ください。電池を長持ちさせることができます。工場出荷時は「入」に設定されています。（70ページ）
パワーセーブモードについて詳しくは86ページをご覧ください。

オートパワーオフ機能について

撮影時、または再生時、本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。再び使いたいときは、POWERボタンを押して電源を入れ直してください。（オートパワーオフ機能が働くのは、バッテリーを電源として使用しているときだけです。また、動画再生時、スライドショー（59ページ）をおこなっているとき、USB端子、DC IN端子、VIDEO OUT端子がささっているときは働きません。）

＊ InfoLITHIUM S（“インフォリチウム”）バッテリーとは

“インフォリチウム”に対応している機器とバッテリーの使用状況に関するデータ通信を行うことができるバッテリーです。本機は“インフォリチウム”対応です。
“InfoLITHIUM（インフォリチウム）”はソニー株式会社の商標です。

バッテリーNP-FS11（別売り）について

寒冷地での撮影や、液晶画面を使って撮影すると使用時間が短くなります。
寒冷地で使用する場合は、バッテリーをポケットなどに入れて暖かくしておき、撮影の直前に本機に取り付けてください。カイロをお使いの場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意下さい。

“ インフォリチウム ”バッテリー（別売り）を充電する

本機の電源が入っているとバッテリーを充電できません。必ず本機の電源を切っておいてください。

❶ バッテリーを本体に入れる。

❷ DC IN端子カバーを開け、▲マークを上にして、本機のDC IN端子につなぐ。

❸ 電源コードをACパワーアダプター（別売り）とコンセントにつなぐ。

充電が始まると、ϟ/CHGが点灯します。充電が終わると消えます（**満充電**）。

バッテリーの充電が終わったら

ACパワーアダプターを本機のDC IN端子から取りはずしてください。

バッテリー残量時間表示

別売りの“ インフォリチウム ”バッテリー使用時に撮影／再生できる残り時間を液晶画面に表示します。
使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。

室温10°C～30°Cで充電することをおすすめします。
電池使用時には残量時間は表示されません。

ご注意

液晶画面をON/OFFしたときは正しい残量時間を表示するのに約1分かかります。

海外でも充電できます

詳しくは82ページをご覧ください。

バッテリーの使用時間と撮影／再生可能枚数

静止画を撮影*するとき

	ソニー製アルカリ電池（付属）		NP-FS11（別売り）**	
	使用時間	撮影枚数	使用時間	撮影枚数
液晶画面ON	約30分	約600枚	約90分	約1800枚
液晶画面OFF	約60分	約1200枚	約120分	約2200枚

静止画を再生***するとき

	ソニー製アルカリ電池（付属）		NP-FS11（別売り）**	
	使用時間	再生枚数	使用時間	再生枚数
液晶画面ON	約60分	約1200枚	約120分	約2400枚

画像サイズが640×480、画質がスタンダード、フラッシュが発光禁止、撮影モードが通常撮影の場合。

* 約3秒ごとに連続撮影した場合。

** 温度25°Cで満充電して使用した場合。

*** 約3秒ごとにシングル画面を順番に再生

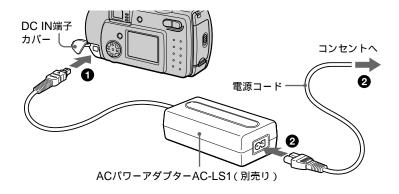
動画を撮影するとき

	ソニー製アルカリ電池（付属）		NP-FS11（別売り）*	
	液晶画面OFF	液晶画面ON	液晶画面OFF	液晶画面ON
連続撮影時	約60分	約30分	約120分	約90分

画像サイズが160×112の場合。

* 温度25°Cで満充電して使用した場合。

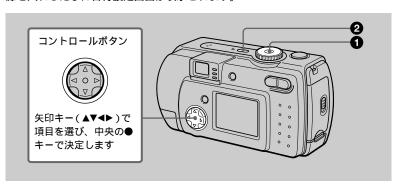
ご注意

静止画や動画の撮影または再生を行っていないときでも、電池が入っていると電池は消耗します。

- 極端に低温の場所では、電池では本機が動作しないことがあります。
  別売りの“インフォリチウム”バッテリー使用時でも、低温時にフラッシュ撮影や電源の入／切を繰り返したとき、ズームを多用したときは、使用時間と撮影／再生枚数は少なくなります。
- 上記の時間と枚数は目安です。使用状況によっては、これらの数字を下回ることもあります。
- “メモリースティック”の容量は限られています。上記の時間と枚数は“メモリースティック”を交換しながら連続撮影／再生したときの目安です。
- LCDバックライトが「明」になっていると、使用時間と撮影／再生枚数は少なくなります。

“インフォリチウム”バッテリー（別売り）の充電時間

バッテリー	満充電時間
NP-FS11（別売り）	約180分

使い切ったバッテリーを温度25°Cの環境でACパワーアダプターAC-LS1（別売り）で充電したときの時間です。

外部電源を使用する

❶ **DC IN端子カバーを開け、▲マークを上にして、本機のDC IN端子につなぐ。**

❷ **電源コードをACパワーアダプター（別売り）とコンセントにつなぐ。**

自動車電源は
別売りDCアダプター／チャージャーでご使用いただけます。

ACパワーアダプターは
コンセントの近くでお使いください。使用中、不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

日付・時刻を合わせる

本機をはじめて使うときは、日付・時刻を設定してください。設定しないと、電源を入れるたびに日付設定画面が表示されます。

❶ モードダイヤルを「📷」または「☽」「🎞」「▶」にする。

❷ POWERボタンを1秒程度押して、電源を入れる。

POWER LEDが点灯するまで押します。
時計設定画面が表示されます。
一度設定した日付、時刻を合わせ直すときは、「SET UP」（69ページ）に合わせ、手順の❸からおこなってください。

❸ コントロールボタンの▲/▼で年月日の表示順を選び、中央の●を押す。

［年/月/日］、［月/日/年］、［日/月/年］の中から選びます。

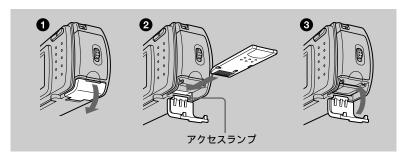
❹ コントロールボタンの◀/▶で設定する年、月、日、時、分の項目を選ぶ。

設定する項目の上下に▲/▼が表示されます。

❺ コントロールボタンの▲/▼で数値を設定して、中央の●を押す。

数値が確定され、次の項目に移ります。
手順❸で［日/月/年］を選んだときは、24時間表示で設定してください。

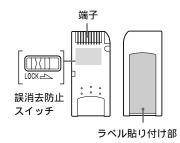
❻ コントロールボタンの▶で[実行]を選び、時報と同時に中央の●を押す。

日付・時刻が設定されます。

中止するには

コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で［キャンセル］を選び、中央の●を押します。

ご注意

充電式ボタン電池の残量がなくなると（71ページ）、再び日付／時刻の設定画面が表示されます。このときは手順❸以降を繰り返して日付、時刻を設定しなおしてください。

“ メモリースティック ”を入れる

❶ “ メモリースティック ”カバーを開ける。

❷ “ メモリースティック ”を入れる。

“ メモリースティック ”の▶マークを奥にして、「カチッ」と音がするまで差し込む。

❸ “ メモリースティック ”カバーを閉める。

“ メモリースティック ”を取り出す

“ メモリースティック ”カバーを開け、“ メモリースティック ”を1回軽く押して取り出してください。

ご注意

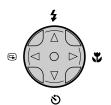
- “ メモリースティック ”を入れるときは、奥まできちんと差し込んでください。正しく差し込まれないと「メモリースティックエラー」等が表示されます。
- アクセスランプが点灯しているときは、絶対に“ メモリースティック ”を取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録や画像編集ができません。

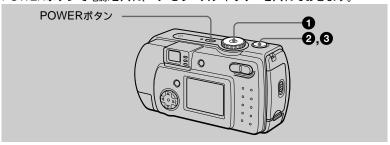
誤消去防止つまみの位置や形状は、お使いの“ メモリースティック ”によって異なることがあります。

基本的な操作

モードダイヤルの使いかた

撮影、再生、編集などの機能を切りかえるダイヤルです。
操作を始める前に、あらかじめ以下のように切り換えておきます。

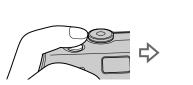
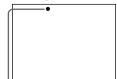
☽： 夜景モード
📷：静止画を撮影する
▶：画像を再生／編集する
🎞：動画／クリップモーションを撮影する
SET UP：SET UPの項目を設定する（SET UPは、一度設定するとあまり変更することのない機能の設定や変更に使います）

コントロールボタンの使いかた

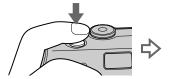
撮影時、メニュー画面が消えているとき、コントロールボタンは次のような操作をおこなうことができます。

⚡（▲）：フラッシュを使って撮影する
⏲（▼）：セルフタイマーで撮影する
⊡（◀）：最後に撮影した画像を確かめる
🌷（▶）：近くのものを撮影する

液晶画面をオフで撮影中にコントロールボタンで🌷や⏲などの機能を選択すると、液晶が2秒程度点灯し、選択した機能のアイコンが画面上に表示されます。MENUボタンを押した時も液晶画面は自動的に点灯しますが、この時は自動でオフにはなりません。

静止画を撮る

静止画をJPEG（ジェイペグ）形式で記録します。
POWERボタンで電源を入れ、“ メモリースティック ”を入れておきます。

❶ モードダイヤルを「📷」または「☽」にする。

❷ シャッターを軽く押す。

ピピッと音がします。このときはまだ撮影されていません。
本機は被写体と撮影状況に合わせた露出・フォーカスを自動調節します。
自動調節が終わると、点滅していたAE/AFロック表示が点灯します。点灯すれば、撮影可能です*。
このときシャッターを離すと、撮影を中止します。

AE/AF**ロック表示（緑）が点滅→点灯**

❸ シャッターを深く押し込む。

撮影されます。
画面に「記録中」と表示され、画像が“ メモリースティック ”に記録されます。「記録中」の文字が消えると、次の撮影ができます。

記録中

＊ 点滅していたAE/AFロック表示が遅い点滅に変わったときは、被写体にフォーカスが合わせにくいことを意味します。（周囲が暗い、被写体と背景のコントラストが弱い、被写体が近すぎる、など）。このようなときは一度シャッターを離して、フォーカスを合わせなおしてください。

"メモリースティック"1枚に記録できる枚数は

45、47～51ページをご覧ください。

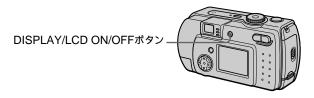
ご注意

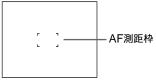
- 被写体が明るいとき、AE/AFロック後に液晶画面の色合いが変わることがありますが、記録された画像は正常です。
- 手順**2**で自動調整が完了する前にシャッターを押し込んでも撮影できます。ただし、次のときは撮影できません。
  ー フラッシュが必要な撮影状態で、⚡/CHGランプ（18ページ）が点滅している（フラッシュの充電が完了していない）とき。

正しいカメラの構え方

撮影する際、フラッシュの光を指でさえぎったり、レンズに触れないようにご注意ください。

ファインダーを使って撮る

液晶画面を消してファインダーで撮影すると、バッテリーの消耗をおさえることができます。
DISPLAY/LCD ON/OFFボタンを押すたび下記の順番で切り換わります。画面上に表示される項目について83ページをご覧ください。

画面表示ON
（表示可能なアイコンをすべて表示）
↓
画面表示OFF
（警告表示のみ）
↓
液晶画面OFF

ファインダー部分の表示

ご注意

- ファインダーでは撮影範囲の全体を確認することはできません。撮影できる範囲を正しく把握するには、液晶画面での撮影をおすすめします。
- 約1m以内の距離にある被写体を撮影するときは、液晶画面を使って撮影してください。ファインダーに映った画像と実際の撮影範囲がずれることがあります。
- SET UPで[デモモード]を[入]のとき、デモンストレーションが始まると、液晶画面を消すことはできません。
- SET UP中またはメニューを表示している間は液晶画面を消すことはできません。
- セルフタイマー表示と、一部の応用操作の表示は消すことができません。
- 画面上の表示は記録されません。

液晶画面を使って撮る

液晶画面を使って撮影する場合は、画面中央のAF測距枠を被写体に合わせて撮影します。

最後に撮影した画像を確かめる（クイックレビュー）

メニューを消し（39ページ）、コントロールボタンの◀（⊡）を押すと、最後に撮影した画像が表示されます（液晶画面がOFFの時でもこの操作はおこなえます）。

通常の撮影モードに戻るには：シャッターボタンを軽く押す。または、もう1度コントロールボタンの◀（⊡）を押す。

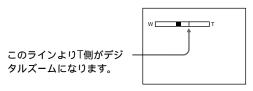
画像を削除するには：1 MENUボタンを押す。2 コントロールボタンの▶で［削除］を選んで、●を押す。3 コントロールボタンの▲で［実行］を選んで、●を押す。

ズームする

ズームボタン

広角（Wide）：被写体が小さく写る

望遠（Telephoto）：被写体が大きく写る

フォーカスを合わせるために必要な被写体までの距離は

W側：約25 cm以上

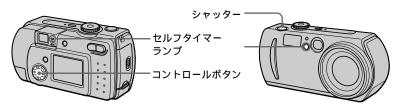
T側：約80 cm以上

さらに近くを撮影するときは、マクロ撮影（52ページ）をお使いください。

静止画を撮る（つづき）

デジタルズームについて

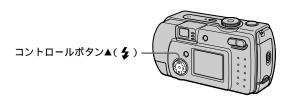
画像をデジタル処理して拡大する機能です。3倍を超えるズームはデジタルズームになります。

デジタルズームを使うと

- 最大6倍までのズームをすることができます。
- 画質は劣化します。デジタルズームを使う必要がないときは、SET UPで[デジタルズーム]を[切]にします(69ページ)。

ご注意

- デジタルズームは動画撮影には使えません。
- デジタルズームを使って静止画を撮影するときは、液晶画面を使って撮影してください。ファインダーではズームした画像が確認できません。
- デジタルズーム中は、AF測距枠(19ページ)は液晶画面に出ません。

セルフタイマーで撮影する

セルフタイマーを使用すると、約10秒後にシャッターが切れます。

メニューを消し（39ページ）、コントロールボタンの▼（⏲）を押したあと、シャッターを深く押し込みます。画面に⏲(セルフタイマー）が表示され、シャッターを押してから約10秒後に撮影されます。その間、セルフタイマーランプが点滅し、ピッピッピとビープ音が鳴ります。

セルフタイマーを途中で止めるには

もう一度コントロールボタンの▼（⏲）を押します。

フラッシュを使って撮影する

お買い上げ時は「AUTO」（表示なし）に設定されています。撮影状況の光量が足りないと判断した場合、自動的に発光します。この設定を変えるときはメニューを消し（39ページ）、コントロールボタンの▲（⚡）を繰り返し押し、希望のフラッシュ表示を出します。

ボタンを押すたびに、以下のように表示が変わります。

（表示なし）→ ⚡ → ⊘ → （表示なし）

⚡ 強制発光：周囲の明るさに関係なく発光します。

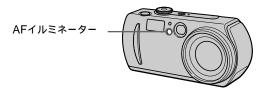
⊘ 発光禁止：発光しません。

フラッシュの発光量は

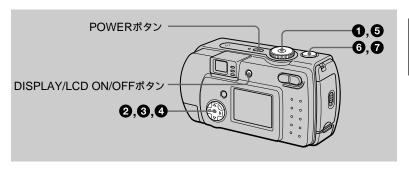
メニューの［フラッシュレベル］で変えることができます（41ページ）。

人物の目が赤くなるのを軽減するには

SET UPの［赤目軽減］を［入］にします。撮影前に予備発光し、目が赤く写るのを軽減します（69ページ）。赤目軽減［入］を選んだときは、モードダイヤルを☽か📷にした時、画面上に◐が表示されます。

ご注意

- メニューの[ISO]が[オート]のとき、内蔵フラッシュの推奨撮影距離は0.3 m〜2.0 mです。[オート]以外のときは、フラッシュレベルを変えても効果が得られないことがあります。
- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が表れにくいことがあります。
- 明るい場面で強制発光を使うとフラッシュ効果が得られにくいことがあります。
- フラッシュを充電している間は、⚡/CHGランプが点滅します。充電が完了すると消灯します。
- 動画撮影時フラッシュは使えません。
- ⊘発光禁止にして暗い場所を撮影すると、シャッタースピードが遅くなりますので、手ぶれを防ぐために三脚の使用をおすすめします。

AFイルミネーターを使って撮影する

暗い場所でフォーカスを合わせるための補助光です。
SET UPの［AFイルミネーター］（69ページ）を［入］にしてください。撮影時に ONが表示され、シャッターを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間だけ自動的に発光します。

ご注意

- AFイルミネーターを発光しても、充分な光が被写体に届かない場合（推奨距離は約2.0 mまで）やコントラストが弱い被写体を撮影する場合、フォーカスは合いません。
- 夜景モードでは、フラッシュの強制発光が設定されている場合のみ、AFイルミネーターは自動発光します。
- AFイルミネーターの光が画像の中心からずれる場合がありますが、光が被写体に届いていれば、フォーカスは合います。
- フォーカスを手動で調整しているとき、AFイルミネーターは使えません。
- AFイルミネーターは明るい光です。安全には問題ありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使い下さい。

動画を撮る

動画をMPEG（エムペグ）形式で記録します（36ページ）。
POWERボタンで電源を入れ、“メモリースティック”を入れておきます。

1 モードダイヤルを「SET UP」にする。

2 コントロールボタンの▲/▼で［📷］（カメラ）を選び、▶を押す。

3 コントロールボタンの▲/▼で［動画選択］を選び、▶を押す。

4 コントロールボタンの▲/▼で［MPEGムービー］を選び、中央の●を押す。

5 モードダイヤルを「🎞」にする。

動画を撮影する準備ができました。

❻ シャッターを深く押し込む。

「録画」と表示され、“ メモリースティック ”への画像の記録が始まります。
動画には音声を録音することはできません。

❼ シャッターをもう一度深く押し込む。

録画が止まります。また、“ メモリースティック ”がいっぱいになると録画は停止します。
画像サイズについて詳しくは、44ページをご覧ください。

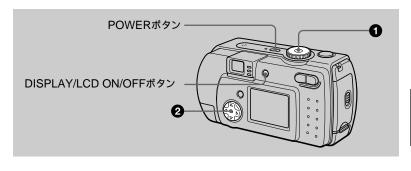
セルフタイマーで撮影する

セルフタイマーを使用すると、約10秒後にシャッターが切れます。
メニューを消し（39ページ）、コントロールボタンの▼（⏲）を押したあと、シャッターを深く押し込みます。画面に⏲（セルフタイマー）が表示され、シャッターを押してから約10秒後に録画が始まります。その間、セルフタイマーランプが点滅し、ピッピッピとビープ音が鳴ります。

セルフタイマーを途中で止めるには

もう一度コントロールボタンの▼（⏲）を押します。

撮影中の画面上の表示

DISPLAY/LCD ON/OFFボタンを押すたびに、画面表示ON→画面表示OFF→液晶画面OFFの順で変わります。
画面上の表示は画像には記録されません。
表示される項目について詳しくは、84ページをご覧ください。

ご注意

録画の途中でバッテリーを抜くなどして電源を切ると、それまでに撮影した動画は記録されません。本機を電池でご使用中に⌂が表示された時は、いったん録画を終了してください。

静止画を見る

POWER ボタンで電源を入れ、" メモリースティック "を入れておきます。

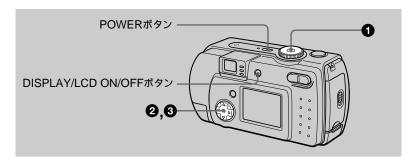
❶ モードダイヤルを「▶」にする。

最後に撮影した画像（静止画または動画）が表示されます。

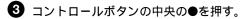
❷ コントロールボタンの◀/▶で静止画を選ぶ。

◀：前の画像へ。
▶：次の画像へ。

ご注意

- 本機で記録した画像は、本機以外の機器では正しく再生できないことがあります。
- 本機で記録できる最大画像サイズより大きい画像は、本機で再生できません。
- はじめに粗い画像が一旦再生され、その後あらためて正常な画像が再生されます。

静止画再生中の画面上の表示

DISPLAY/LCD ON/OFFボタンを押すたびに、画面表示ON→画面表示OFF→液晶画面OFFの順で変わります。
表示される項目について詳しくは、85ページをご覧ください。

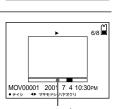
動画を見る

POWER ボタンで電源を入れ、“ メモリースティック ”を入れておきます。

❶ **モードダイヤルを「▶」にする。**

最後に撮影した画像（静止画または動画）が表示されます。

❷ **コントロールボタンの◀/▶で見たい動画を選ぶ。**

動画は静止画よりもひとまわり小さく表示されます。
◀：前の画像へ。
▶：次の画像へ。

6/8
MOV00001 2001 7 4 10:30PM
● サイセイ ◀▶ モドル/ツギヘ

❸ **コントロールボタンの中央の●を押す。**

動画が再生されます。
再生中▶（再生）アイコンが液晶画面に表示されます。
動画の再生中、コントロールボタンの◀▶で映像の巻き戻し／早送りができます。

再生バー

再生を停止するには
コントロールボタンの中央の●を押します。

巻き戻し／早送りをするには
再生中に◀/▶を押します。
通常の再生に戻すには、コントロールボタンの中央の●を押します。

動画再生中の画面上の表示

DISPLAY/LCD ON/OFFボタンを押すたびに、画面表示ON→画面表示OFF→液晶画面OFFの順で変わります。
表示される項目について詳しくは、85ページをご覧ください。

パソコンで画像を見る

本機で撮影した画像データを、パソコンにとりこみ、パソコンのソフトウェアで、加工したり、Eメールに添付したりできます。ここでは、付属のUSB接続ケーブルを使用して、パソコンで画像を見る手順について説明します。
USBモードには［標準］と［PTP］の2通りの接続方法があります。
ここでは［標準］での使い方を説明します。［PTP］に関しては、対応可能な状況になりましたら、弊社ウエブサイトなどでご案内いたします。

デジタルイメージングカスタマーサポート
http://www.sony.co.jp/support-di/
パソコンへの画像の取り込みかたについては、同梱の冊子『サイバーショットで撮った画像をパソコンに取り込んで楽しもう！』で、より分かりやすくご紹介しています。そちらも合わせてご覧ください。

工場出荷時にはUSBモードは［標準］に設定されています。
モードの確認／設定方法は以下のように行います。
① モードダイヤルを「SETUP」にする。
② コントロールボタンの▲/▼で［設定2］を選び、▶を押す。
③ コントロールボタンの▲/▼で［USB接続］を選び、▶を押す。
④ コントロールボタンの▲/▼で接続方法を選ぶ。

USB接続ケーブルとは：本機とパソコンを接続して、パソコン側から本機の“メモリースティック”内に記録されている画像ファイルを操作することができるケーブルです。
USB接続ケーブルを使うには：パソコン側に「USBドライバ」があらかじめインストールされている必要があります。
パソコンやアプリケーションソフトの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機で撮影した画像データは以下の形式で保存されています。それぞれのファイル形式に対応したアプリケーションソフトがパソコンにインストールされていることをご確認ください。
  – 静止画（テキストモード、非圧縮モード、クリップモーション以外）：JPEG形式
  – 動画：MPEG形式
  – 非圧縮モードによる静止画：TIFF形式
  – テキストモード、クリップモーション：GIF形式
- アプリケーションソフトによっては、静止画ファイルを開くとファイルサイズが大きくなる場合があります。
- レタッチソフトなどを使って加工した画像をパソコンから本機に取り込む場合、画像形式が異なるためファイルエラー表示が出たりファイルが開けない場合があります。
- アプリケーションソフトによっては、クリップモーションの画像の1コマ目しか表示されない場合があります。

パソコンとの通信（Windowsのみ）

- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。
- 本機とパソコンを接続するときは、充分に充電した“インフォリチウム”バッテリー（別売り）、またはACアダプター（別売り）をお使いください。
- 電池でご使用の際は、電池の残量を確認の上、ご使用下さい。パソコンとの通信中に本機の電源が切れると、“メモリースティック”内の画像が壊れたり、失われたりすることがあります。

パソコンの推奨使用環境

推奨Windows環境

OS：　Microsoft Windows 98、Windows 98SE、Windows 2000 Professional、Windows Millennium Edition
工場出荷時にインストールされていることが必要です。
上記のOSでもアップグレードされた場合は動作保証いたしません。

CPU：MMX Pentium 200 MHz以上

USB端子が標準で装備されていること。

推奨Macintosh環境

Mac OS 8.5.1/8.6/9.0/9.1, Mac OS Xが工場出荷時にインストールされているMacintosh

ただし、次のモデルの場合はMac OS 9.0/9.1にアップデートしてご使用ください。

- Mac OS 8.6が工場出荷時にインストールされていて、CD-ROMドライブがスロットローディングのiMac
- Mac OS 8.6が工場出荷時にインストールされているiBook、Power Mac G4

USB端子が標準で装備されていること。

QuickTime 3.0以降がインストールされていること（動画再生時）。

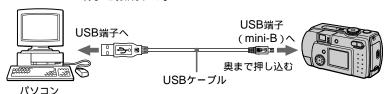
ご注意

- 一台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続されている場合、同時に使われるUSB機器によっては動作いたしません。
- ハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

- MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacintoshおよびMac OS、QuickTimeは、Apple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

USBドライバをインストールする

本機をパソコンに接続する前に、お手持ちのパソコンにUSBドライバをインストールします。USBドライバは、本機に付属しているCD-ROMに、画像を見るためのアプリケーションソフトとともに収録されています。

USBケーブルは、USBドライバのインストールが完了してから接続してください。先にUSBケーブルを接続すると、USBドライバが正しくインストールできません。
ドライバをインストールする前にUSBケーブルを接続してしまった場合など、ドライバソフトが正常にインストールできなかった場合の対応については、**78ページをご覧ください。**

例：Windows 98、Windows 98SE、Windows 2000、Windows Me をお使いの場合

❶ **パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。**

まだUSBケーブルはパソコンに接続しないでください。

❷ **付属のUSBドライバのCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。**

アプリケーションソフトの画面が起動します。

❸ **[USB Driver Installation for Windows 98/98SE/Me and Windows 2000] をクリックする。**

USBドライバのインストール画面が起動します。

❹ **画面の指示に従って、USBドライバをインストールする。**

パソコンによってはインストール後に再起動することもあります。

❺ **付属の専用USBケーブルで、本機のUSB端子（mini-B）とパソコンのUSB端子を接続する。**

❻ 本機に“ メモリースティック ”を挿入し、ACパワーアダプターを接続して本機の電源を入れる。

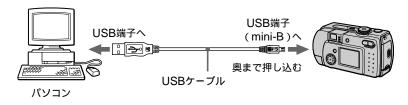
本機の液晶画面に「USBモード」と表示され、パソコンからの通信待機状態になります。パソコンが本機を認識し、Windowsのハードウェア追加ウィザードが起動します。

❼ 画面の指示にしたがって、ハードウェアを認識させる。

2種類のUSBドライバをインストールするため、ハードウェア追加ウィザードは2回起動します。途中で中断せずに、最後までインストールを完了してください。

ご注意

- 手順**4**が完了するまでは、本機をパソコンに接続しないでください。
- 手順**7**では必ず本機に“ メモリースティック ”を挿入しておいてください。挿入していないと、インストールできません。

例：Macintoshをお使いの場合

• Mac OS 9.1, Mac OS Xをお使いの場合

USBドライバをインストールする必要はありません。本機とMacintoshをUSBケーブルで接続するだけでMacintoshにドライブとして認識されます。

• Mac OS 8.5.1/8.6/9.0をお使いの場合

手順にしたがってドライブをインストールしてください。

❶ パソコンの電源を入れ、Mac OSを起動する。

❷ 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。

❸ CD-ROMドライブのアイコンをダブルクリックし、ウィンドウを開く。

❹ OSの入っているハードディスクのアイコンをダブルクリックし、ウィンドウを開く。

❺ 手順❸で開いたウィンドウから、以下の2つのファイルを、手順❹で開いたウィンドウの「システムフォルダ」のアイコンの上に移動（ドラッグ・アンド・ドロップ）する。

- Sony USB Driver
- Sony USB Shim

❻ 「機能拡張フォルダに入れますか？」と表示されたら「はい」を選択する。

❼ パソコンを再起動する。

画像を見る

Windowsでの動画再生時には、RealPlayerやWindows Media Playerなどの動画再生ソフトがインストールされていることが必要です。Macintoshでの動画再生時にはQuicktime3.0以降がインストールされていることが必要です。

❶ パソコンの電源を入れ、WindowsまたはMacintoshを起動する。

❷ 専用USBケーブルで本機の専用USB端子（mini-B）とパソコンのUSB端子を接続する。

❸ 本機に“メモリースティック”を挿入し、ACパワーアダプターをコンセントに接続する。

❹ 本機の電源を入れる。

本機の液晶画面に「USBモード」と表示されます。

Windows 98、Windows 98SE、Windows 2000、Windows Meをお使いの場合

❺ **Windows上で「マイコンピュータ」を開き、新しく認識されたハードウェア（例：「リムーバブルディスク（E:)」）をダブルクリックする。**

ハードウエアが正しく認識されない場合は、「故障かな？と思ったら」（74ページ）をご覧ください。

" メモリースティック "内のフォルダが表示されます。

❻ **見たい画像ファイルをフォルダの中から選んで、ダブルクリックする。**

詳しくは「画像ファイルの保存先とファイル名」（35ページ）をご覧ください。

再生したいファイル	この順でダブルクリックする
静止画	「Dcim」フォルダ→「100msdcf」フォルダ→画像ファイル
動画	「Mssony」フォルダ→「Moml0001」フォルダ→画像ファイル パソコンのハードディスクにコピーしてから再生することをお勧めします。" メモリースティック "から直接再生すると、画像がとぎれることがあります。
クリップモーション画像	「Dcim」フォルダ→「100msdcf」フォルダ→画像ファイル
Eメール画像、TIFF（非圧縮）画像	「Mssony」フォルダ→「Imcif100」フォルダ→画像ファイル

Macintoshをお使いの場合

31ページの❶～❹までの手順をおこなってください。

❺ **デスクトップ上の新しく認識されたアイコンをダブルクリックする。**

" メモリースティック "内のフォルダが表示されます。

❻ **見たい画像ファイルをフォルダの中から選んで、ダブルクリックする。**

パソコンを使用するときのご注意

" メモリースティック "

- パソコンでフォーマットした" メモリースティック "を本機に使用した場合や、USB接続時に本機内の" メモリースティック "をパソコンからフォーマットした場合は動作保証いたしません。
- Windowsで" メモリースティック "の最適化はしないでください。" メモリースティック "の寿命を縮めます。
- " メモリースティック "内のデータを圧縮しないでください。圧縮されたデータは本機で使用できなくなります。

Windows Me、Windows 2000をお使いの場合

パソコンからUSBケーブルを取り外すときや、パソコンと接続している本機から" メモリースティック "を取り出すときは、下記の手順でおこなってください。

1. タスクトレイの中の「ハードウェアの取り外し」アイコンより、該当するドライブを停止する。
2. 安全な取り外しが可能だと知らせるメッセージが出てから、USBケーブルを抜く、または" メモリースティック "を取り出す。

ソフトウェア

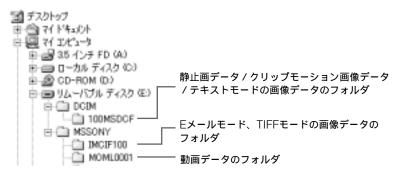
- アプリケーションソフトによっては、静止画ファイルを開くとファイルサイズが大きくなる場合があります。
- 本機に付属のレタッチソフト等を使って加工した画像を、パソコンから本機に取り込む場合または本機の画像を直接加工した場合、画像形式が異なるためファイルエラー表示が出たりファイルが開けない場合があります。
- アプリケーションソフトによっては、クリップモーション画像の1コマ目しか表示されない場合があります。

パソコンとの通信(Windowsのみ)

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

パソコンで画像を見る（つづき）

ソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズをお使いの場合

本機に付属のCD-ROMに収録されている画像処理ソフト使用時、ソフトが強制終了されることがあります。また、MPEGデータを再生すると再生時間が極端に短くなることもあります。その際は下記のホームページで最新ドライバソフト［Sony MPEG Decoder］を入手してご使用ください。

http://www.vaio.sony.co.jp

アップデートプログラムから［Sony MPEG Decoder］を選び、ダウンロードする。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、撮影モードごとにフォルダにまとめられています。ファイル名の意味は以下の通りです。□□□□には0001から9999までの数字が入ります。

Windows Meで見たときの例（本機が認識されたドライブはE）

このフォルダの中にある	このファイルは	こういう意味
100msdcf	DSC0□□□□.JPG	● 通常撮影した静止画ファイル ● 以下の形式で撮影した静止画ファイル －Eメールモード（47ページ） －TIFFモード（49ページ）
	CLP0□□□□.GIF	● ノーマルモードで撮影したクリップモーションファイル（50ページ）
	CLP0□□□□.THM	● ノーマルモードで撮影したクリップモーションファイルのインデックス画像ファイル
	MBL0□□□□.GIF	● モバイルモードで撮影したクリップモーションファイル（50ページ）
	MBL0□□□□.THM	● モバイルモードで撮影したクリップモーションファイルのインデックス画像ファイル
	TXT0□□□□.GIF	● テキストモードで撮影した静止画ファイル（48ページ）
	TXT0□□□□.THM	● テキストモードで撮影した静止画ファイルのインデックス画像ファイル

画像ファイルの保存先とファイル名（つづき）

このフォルダの中にある	このファイルは	こういう意味
Imcif100	DSC0□□□□.JPG	• Eメールモードで撮影した小サイズ画像ファイル（47ページ）
	DSC0□□□□.TIF	• TIFFモードで撮影した非圧縮画像ファイル（49ページ）
Moml0001	MOV0□□□□.MPG	• 通常撮影した動画ファイル

下記のファイルの数字部分は同じになります。
– Eメールモードで撮影した小サイズ画像ファイルとその画像ファイル
– TIFFモードで撮影した非圧縮画像ファイルとその画像ファイル
– テキストモードで撮影した画像ファイルとそのインデックス画像ファイル
– クリップモーションで撮影した画像ファイルとそのインデックス画像ファイル

ちょっと一言

デジタルスチルカメラは撮影した画像をデジタルデータで保存します。このデジタルデータの形式をファイル形式といい、本機は以下の形式を採用しています。

JPEG形式

ほとんどのデジタルスチルカメラやパソコンのOS／ブラウザで採用されている画像圧縮形式です。撮影した画像データを、見た目をあまり変えずに圧縮／保存できます。ただし、画像の圧縮／保存をくりかえすと画像が劣化します。本機では通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存します。

GIF形式

圧縮／保存をくり返しても画像が劣化しない画像の圧縮形式です。使用する色を256色に制限します。本機ではクリップモーションモード（50ページ）、テキストモード（48ページ）での撮影時にGIF形式で画像を保存します。

TIFF形式

撮影した画像データを圧縮せずに保存するので、画像が劣化しません。ほとんどのパソコンのOSやソフトウェアに対応できます。本機では、TIFFモード（49ページ）での撮影時にTIFF形式で画像を保存します。

MPEG形式

動画の代表的な圧縮形式です。本機では動画ファイルをMPEG形式で保存します。

「プレイステーション 2」に画像を取り込む

本機と「プレイステーション 2」をUSBケーブルで接続すると、本機で撮影したJPEGの画像を「プレイステーション 2」に取り込むことができます。この場合、付属の「PictureParadise Club（体験版）」か、ピクチャーパラダイスに対応した市販の「プレイステーション 2」専用アプリケーションソフトが必要です。

- 「プレイステーション」は、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
- PictureParadise および「ピクチャーパラダイス」ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

ピクチャーパラダイスについて

ピクチャーパラダイスとは、ソニー株式会社の提唱する対応機器と「プレイステーション 2」を接続し、対応アプリケーションソフトを使い、画像データなどを取り扱うことのできる規格の名称です。
ドライバ等のインストールは不要です。ピクチャーパラダイスに対応したアプリケーションソフトのディスクを「プレイステーション 2」に入れれば、すぐに遊べます。

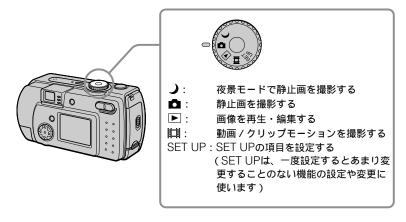
「プレイステーション 2」につなぐ

つなぐ前に、本機と「プレイステーション 2」の電源が切れていることを確認してください。

❶ **USBケーブルで本機と「プレイステーション 2」をつなぐ。**

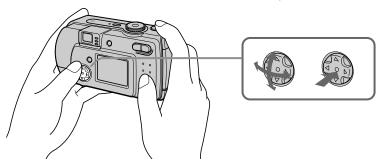
❷ **取り込みたい画像が入った“メモリースティック”を本機に、アプリケーションソフトのディスクを「プレイステーション 2」に入れる。**

❸ **本機と「プレイステーション 2」の電源を入れる。**

❹ **アプリケーションソフトの遊びかたの指示にしたがって本機から画像を取り込んで遊ぶ。**

遊びかたはアプリケーションソフトによって異なります。詳しくはアプリケーションソフトの取扱説明書をご覧ください。

応用操作の前にお読みください

ここでは、「応用操作」でよく使われるダイヤルやダイヤルボタンの使いかたをまとめて説明します。

モードダイヤルの使いかた

本機を使って撮影するのか、再生・編集するのかを切り換えるダイヤルです。
操作を始める前に、あらかじめ以下のように切り換えておきます。

コントロールボタンの使いかた

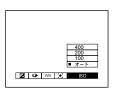
メニューやSET UP画面が表示されている場合、本機はコントロールボタンで画面上の表示や画像、メニューを選び操作します。
ここでは応用操作編でよく使われる操作方法を説明します。

画面上の操作ボタン（メニュー）を表示／非表示する

MENUボタンを押すたびに画面上のメニューが表示／非表示されます。

液晶画面OFF時でもこの操作はおこなえます。

SET UP画面やメニューでの設定を変える

❶ モードダイヤルを「SETUP」にしてSETUP画面を表示するか、MENUボタンを押してメニューを表示する。

❷ モードダイヤルの設定が「SETUP」または「▶」のとき

1 コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ。
選ばれた項目の枠は黄色に変わります。

2 コントロールボタンの中央の●を押し、設定（実行）する。

モードダイヤルの設定が「📷」または「☽」「🎞」のとき

コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ。
選ばれた項目の枠は黄色に変わり、そのまま決定されます。

応用操作の前にお読みください

設定項目の説明

モードダイヤルの位置によって操作できる項目は変わります。画面には、設定が可能な項目のみが表示されます。■印はお買い上げ時の設定です。

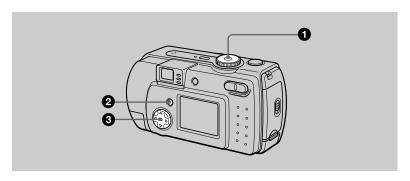
モードダイヤルが「📷」、「☽」のとき

項目	設定	意味
± (EV)	+2.0EV～−2.0EV	画像の明るさ(露出)を調節する。 1/3EVきざみで13段階の調節ができます。お買い上げ時は0EVに設定されています。
(フォーカス)	∞(無限遠) 7.0m 3.0m 1.0m 0.5m ■ オート	被写体までの距離を設定する(51ページ)。
WB (ホワイトバランス)	ホールド ■ オート 屋内 屋外	ホワイトバランスを設定する(54ページ)。
[●] (スポット測光)	入 ■ 切	撮りたいポイントに明るさを合わせる(56ページ)。
ISO	400 200 100 ■ オート	ISO感度を選ぶ。暗い場所や高速で移動する被写体の撮影には大きい数字を、高画質を得るには小さい数字を選ぶ。 (「☽」夜景モードの時は設定できません)
(画像サイズ)	■ 1600×1200(DSC-P50のみ) ■ 1280×960(DSC-P30のみ) 1600 (3:2)(DSC-P50のみ) 1280 (3:2)(DSC-P30のみ) 1024×768 640×480	静止画撮影時の画像サイズを選ぶ(44ページ)。
(画質)	■ ファイン スタンダード	高画質で記録する。 標準の画質で記録する。
MODE (撮影モード)	TIFF テキスト Eメール ■ 通常撮影	JPEGファイルと別にTIFF(非圧縮)ファイルを記録する。 GIFファイルで白黒撮影する。 設定されている画像サイズと別に小サイズ(320×240)のJPEGファイルを記録する。 通常の撮影をする。

モードダイヤルが「📷」、「☽」のとき

項目	設定	意味
⚡± (フラッシュレベル)	明 ■ 標準 暗	フラッシュの発光量を通常より多くする。 通常の設定。 フラッシュの発光量を通常より少なくする。
PFX (P.エフェクト)	ソラリ モノトーン セピア ネガアート ■ 切	画像の特殊効果を設定する(55ページ)。
◫ (シャープネス)	+2 +1 ■ 0 –1 –2	画像のシャープネスを調節する。設定が0以外のときは、画面に◫が出る。

モードダイヤルが「🎞」のとき(SET UPの「動画選択」が「MPEGムービー」のとき)

項目	設定	意味
☒ (EV)	+2.0EV〜−2.0EV	画像の明るさ(露出)を調節する。 1/3EVきざみで13段階の調節ができます。お買い上げ時は0EVに設定されています。
☞ (フォーカス)	∞(無限遠) 7.0m 3.0m 1.0m 0.5m ■ オート	被写体までの距離を設定する(51ページ)。
WB (ホワイトバランス)	ホールド ■ オート 屋内 屋外	ホワイトバランスを設定する(54ページ)。
[●] (スポット測光)	入 ■ 切	撮りたいポイントに明るさを合わせる(56ページ)。
▦ (画像サイズ)	320×240 ■ 160×112	動画撮影時にMPEG画像のサイズを選ぶ(44ページ)。
PFX (P.エフェクト)	ソラリ モノトーン セピア ネガアート ■ 切	画像の特殊効果を設定する(55ページ)。

モードダイヤルが「🎞」のとき(SET UPの「動画選択」が「クリップモーション」のとき)

項目	設定	意味
(EV)	+2.0EV〜−2.0EV	画像の明るさ(露出)を調節する。 1/3EVきざみで13段階の調節ができます。お買い上げ時は0EVに設定されています。
(フォーカス)	∞(無限遠) 7.0m 3.0m 1.0m 0.5m ■ オート	被写体までの距離を設定する(51ページ)。
WB (ホワイトバランス)	ホールド ■ オート 屋内 屋外	ホワイトバランスを設定する(54ページ)。
(スポット測光)	入 ■ 切	撮りたいポイントに明るさを合わせる(56ページ)。
(画像サイズ)	■ ノーマル モバイル	クリップモーションの画像サイズを設定する(44ページ)。
± (フラッシュレベル)	明 ■ 標準 暗	フラッシュの発光量を通常より多くする。 通常の設定。 フラッシュの発光量を通常より少なくする。
PFX (P.エフェクト)	ソラリ モノトーン セピア ネガアート ■ 切	画像の特殊効果を設定する(55ページ)。
(シャープネス)	+2 +1 ■ 0 −1 −2	画像のシャープネスを調節する。設定が0以外のときは、画面にが出る。

モードダイヤルが「▶」のとき

項目	設定	意味
削除	実行 キャンセル	表示中の画像を削除する（61ページ）。 削除を中止する。
プロテクト	—	画像に誤消去防止指定をする（63ページ）。
プリント	—	プリントしたい静止画像を選ぶ（65ページ）。
スライドショー	間隔設定 繰り返し スタート キャンセル	スライドショーの間隔を設定する。 （シングル画面のときのみ） ■3秒／5秒／10秒／30秒／1分 ■入／切 スライドショーを実行する。 スライドショーの設定および実行を中止する。
リサイズ	1600×1200（DSC-P50のみ） 1280×960（DSC-P30のみ） 1024×768 640×480 キャンセル	撮影した静止画の画像サイズを変更する（64ページ）。 （シングル画面のときのみ）
回転	右回し 左回し 実行 キャンセル	静止画像を右回り、または左回りに回転する（60ページ）。 （シングル画面のときのみ）
分割	実行 キャンセル	動画を分割する（67ページ）。 （シングル画面のときのみ）

画像サイズとは

1 モードダイヤルを「📷」または「🎞」「☽」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 [▦]（画像サイズ）から希望の画像サイズを表示させ、▲/▼を押す。

静止画の場合：

DSC-P50
　1600×1200
　1600（3:2）*
　1024×768
　640×480

DSC-P30
　1280×960
　1280（3:2）*
　1024×768
　640×480

* プリント紙の横縦比3：2に合うように、画像を3：2で撮影します。プリントしたときに余白が出ません。撮影時には、液晶画面（横縦比4：3）の上下に黒い帯が現れます。

動画（MPEGムービー）の場合：

320×240
160×112

クリップモーションの場合：

ノーマル（160×120）
モバイル（80×72）

“メモリースティック”(4MB)1枚に記録できる枚数*、時間**は

静止画：

画像サイズ	用途例	画質	
		スタンダード	ファイン
1600×1200(DSC-P50のみ)	A4サイズの印刷など	約7枚	約3枚
1600 (3:2)(DSC-P50のみ)	3:2プリント	約7枚	約3枚
1280×960(DSC-P30のみ)	ハガキサイズの印刷など	約11枚	約6枚
1280 (3:2)(DSC-P30のみ)	3:2プリント	約11枚	約6枚
1024×768	ホームページなど	約16枚	約10枚
640×480	Eメール添付など	約57枚	約23枚

動画：

画像サイズ	用途例	枚数または時間
320×240	ホームページなど	約40秒
160×112	Eメール添付など	約160秒
クリップモーション(モバイル)(80×72)(2コマ)	—	約200枚
クリップモーション(ノーマル)(160×120)(10コマ)	—	約20枚

* 撮影モードが[通常撮影]の場合
** 連続撮影時最大記録時間

記録時間、枚数は

撮影状況によっては数値と異なる場合があります。

場面に合わせて撮る
ー 夜景モード

モードダイヤル：☽

夜景撮影に適したモードです。

1 モードダイヤルを「☽」にする。

暗い雰囲気を損なわずに、夜景をきれいに撮影することができます。シャッタースピードが遅くなるので、手ぶれを防ぐために三脚をご使用になることをおすすめします。

2 撮影する。

夜景モードを解除するには

モードダイヤルを「📷」にします。

ご注意

- 夜景モードでフラッシュを使うときは、強制発光⚡にしてください。
- 夜景モードでは動画は撮影できません。
- 夜景モードで、フラッシュを強制発光にしているとき、AFイルミネーター（22ページ）が発光します。

ちょっと一言

通常の撮影時、本機は周囲の環境にあわせて、フォーカスや絞り、露出、ホワイトバランスなどを自動調整しています。しかし、この自動調整では撮影意図どおりの画像を撮影できないことがあります。夜景モードは、あらかじめ想定した撮影状況に最適になるように本機を設定するモードです。

Eメール添付用の画像を撮る – Eメール

モードダイヤル：📷/☽

Eメール添付に適した、小さいサイズの画像を撮影します。44ページで選択したサイズの静止画も同時に記録されます。

1 モードダイヤルを「📷」または「☽」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

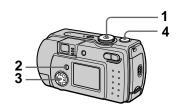
3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［Eメール］の順に選ぶ。

4 撮影する。

Eメール撮影時、"メモリースティック"（4MB）1枚に記録できる枚数は

画像サイズ	画質	
	スタンダード	ファイン
1600×1200 (DSC-P50のみ)	約7枚	約3枚
1600 (3:2) (DSC-P50のみ)	約7枚	約3枚
1280×960 (DSC-P30のみ)	約10枚	約5枚
1280 (3:2) (DSC-P30のみ)	約10枚	約5枚
1024×768	約15枚	約9枚
640×480	約46枚	約21枚

撮影枚数は

撮影状況によっては数値と異なる場合があります。

通常撮影に戻すには

手順**3**で▲/▼で［通常撮影］を選びます。

文字などを撮る

– テキストモード

モードダイヤル：📷

文字などをモノクロではっきりと撮影するのに適しています。GIF形式で記録します。
液晶画面もモノクロになります。

1 モードダイヤルを「📷」にする。

2 MENUボタンを押す。
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［テキスト］の順に選ぶ。

4 撮影する。

テキストモード時、"メモリースティック"（4MB）1枚に記録できる枚数は

画像サイズ	撮影枚数（最小～最大）
1600×1200（DSC-P50のみ）	約12～68枚
1600（3:2）（DSC-P50のみ）	約13～68枚
1280×960（DSC-P30のみ）	約18～79枚
1280（3:2）（DSC-P30のみ）	約20～95枚
1024×768	約26～95枚
640×480	約59～158枚

通常撮影に戻すには
手順3で▲/▼で［通常撮影］を選びます。

ご注意

- 被写体となる文書などに均等に光があたっていないと、鮮明に撮影できないことがあります。
- データの書き込み／読み出しに通常撮影よりも時間がかかります。
- モードダイヤルが「☽」のときは、撮影はできますが、白とびや黒つぶれが生じることがあります。
- 撮影残枚数は表示されません。
- 画質が［スタンダード］でも［ファイン］でも記録できる枚数は同じです。

画像を圧縮せずに撮る

– TIFFモード

モードダイヤル：📷/☽

画像データを圧縮せずに撮影するため、画質の劣化がほとんどありません。写真画質でのプリント時などに適しています。JPEG（圧縮）モードの画像も同時に記録します。

1 モードダイヤルを「📷」または「☽」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［TIFF］の順に選ぶ。

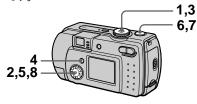
4 撮影する。

TIFFモード時、“メモリースティック”（8MB）1枚に記録できる枚数は1枚です。

通常撮影に戻すには

手順**3**で▲/▼で［通常撮影］を選びます。

ご注意

- JPEG画像は、44ページで選択した画像サイズで記録されます。
  DSC-P50の場合、［1600（3:2）］を選んでいるとき以外は［1600×1200］で記録されます。
  DSC-P30の場合、［1280（3:2）］を選んでいるとき以外は［1280×960］で記録されます。
- データの書き込みに通常撮影よりも時間がかかります。
- 付属の“メモリースティック”（4MB）では容量が足りないためTIFFモードでの記録はできません。

コマ送りの画像を撮る

– クリップモーション

モードダイヤル：[icon]

連続した静止画（GIFアニメ）を撮影します。ホームページに載せたり、Eメールに添付したりするときに便利です。

1 **モードダイヤルを「SET UP」にする。**

SET UP画面が表示されます。

2 **▲/▼で［[camera icon]］（カメラ）、▶/▲/▼で［動画選択］、▲/▼で［クリップモーション］の順に選び、●を押す。**

3 **モードダイヤルを「[icon]」にする。**

4 **MENUボタンを押す。**

メニューが表示されます。

5 **◀/▶で［[icon]］（画像サイズ）、▲/▼で希望のモードを選ぶ。**

ノーマル（160×120）
最大10コマのクリップモーションを撮影できます。ホームページなどでの利用に適しています。

モバイル（80×72）
最大2コマのクリップモーションを撮影できます。携帯端末などでの利用に適しています。

6 **1コマ目の撮影をする。**

手順**8**をおこなわないうちは、画像は本機に一時的に記録されます。“ メモリースティック ”には記録されません。

7 **次のコマを撮影する。**

撮影可能最大枚数まで繰り返し撮影できます。

8 **コントロールボタン中央の●を押す。**

全画面が“ メモリースティック ”に記録されます。

撮影した画像を途中で削除するには

①手順**6**または**7**で、コントロールボタンの◀([icon])を押す。
撮影した画像が順番に再生され、最後の画像で止まります。

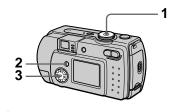
②MENUボタンを押し、メニューから［最後のみ削除］または［すべて削除］を選び、●を押す。

③［実行］を選び、●を押す。
手順②で［最後のみ削除］を選んだ場合は、手順①から③を繰り返すと、新しい画像から順に削除されていきます。

“メモリースティック”（4MB）1枚に記録できるクリップモーションの枚数は

画像サイズ	撮影枚数
ノーマル（160×120）	約20*枚
モバイル（80×72）	約200枚

* 10コマ撮影した場合

ご注意

- クリップモーションの撮影途中で画像サイズを変更することはできません。
- データの書き込み／読み出しに、通常撮影よりも時間がかかります。
- クリップモーションの撮影に使用する色の数は256色以下に制限されています。これはGIF形式の記録の特性によるものです。このため、画像によっては画質が落ちることがあります。
- モバイルモードは、ファイルサイズを小さく抑えているため画質が落ちます。
- 本機以外で作成したGIFファイルは、本機では正しく表示されない場合があります。
- モードダイヤルを切り替えたり、POWERスイッチで電源を切ったりすると、それまでに撮影した全画面がメモリースティックに記録されます。

被写体までの距離を設定する

– フォーカスプリセット

モードダイヤル：//

通常は、本機が自動的にフォーカスの調整を行っていますが、被写体との距離に応じて撮影距離をあらかじめ設定して撮影するときや、フォーカス自動調整が効きにくいときに使うと便利です。

1 モードダイヤルを「」または「」「」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

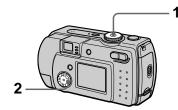
3 ◀/▶で［］（フォーカス）、▲/▼で希望の距離を選ぶ。

被写体までの距離は次の中から選べます。

オート、0.5m、1.0m、3.0m、7.0m、∞（無限遠）

自動調節に戻すには

手順**3**で▲/▼で［オート］を選びます。

ご注意

- 設定できる距離には多少の誤差を含んでいます。目安としてお使いください。
- ズームボタンのTを押してズームをT側にしていると、約0.5 m以内のフォーカスが正しく合わないことがあります。その場合、フォーカス距離情報が点滅します。点滅しなくなるまで、ズームボタンWを繰り返し押してください。

アップで撮る

– マクロ撮影

モードダイヤル：📷/☾/🎞

花や昆虫など、小さな被写体に接近して、大きく撮影するような時に使います。

1 モードダイヤルを「📷」または「☾」「🎞」にする。

2 メニューが消えた状態でコントロールボタンの▶を押す。

画面にマクロ表示マーク🌷が表示されます。
ズームがW側いっぱいのとき約3 cm、T側では約80 cmまで近づいて撮影できます。

通常撮影に戻すには

もう1度コントロールボタンの▶を押します。🌷が消えます。

ご注意

- マクロ撮影時は液晶画面を使って撮影してください。ファインダーを使って撮影すると、実際に見える範囲と写る範囲がずれることがあります。

露出を補正する
– EV補正

モードダイヤル：📷/☽/🎞

自動的に決定された露出を撮影者の意図する露出に変えるときに使います。

1 モードダイヤルを「📷」または「☽」「🎞」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［±］（EV）、▲/▼で希望の補正値を選ぶ。

被写体の背景の明るさを液晶画面で確認しながら調節してください。
補正する数値は+2.0EVから–2.0EVの範囲で、1/3EVきざみで設定することができます。

ご注意

被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュを使って撮影したときは、設定した補正が効かないことがあります。

ちょっと一言

通常の撮影時、本機は自動で露出を補正しています。撮影画像を確認し、下のイラストのようになっていたら、手動調節することをおすすめします。逆光の人物や雪景色で撮影するときは＋の方向に、画面いっぱいに黒い被写体を撮影するときなどは–方向に補正すると効果的です。

露出不足。
＋方向へ補正。

露出過剰。
–方向へ補正。

色合いを調節する
– ホワイトバランス

モードダイヤル：📷/☽/🎞

通常（オート）は、撮影状況に応じて本機が自動的にホワイトバランスを設定して、全体の色のバランスを調整しています。撮影条件を固定したいときや特定の照明状態で撮影するときは、マニュアルで設定することができます。

1 モードダイヤルを「📷」または「☽」「🎞」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で「WB」（ホワイトバランス）、▲/▼で希望の設定を選ぶ。

ホールド（HOLD）
単一色の被写体や背景を撮るとき

オート（表示なし）
ホワイトバランスを自動調節する。
蛍光灯の下で撮影するとき

屋内（💡）
- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下
- ナトリウムランプ、水銀灯の下

屋外（☀）
夜景やネオン、花火や日の出、日没などを撮るとき

自動調節に戻すには

手順**3**で▲/▼で［オート］を選びます。

ちょっと一言

被写体の見ための色は、光の状況に影響されます。夏の太陽のような光の下ではすべてのものが青っぽく見え、電球のような光源の下では白いものが赤っぽく見えます。人間の目にはすぐれた調節機能があり、光が変わってもすぐに正しい色を認識できます。しかし、デジタルスチルカメラは光の影響を大きく受けます。通常本機は調節を自動で行なっていますが、撮影画像を再生してみて画面全体が不自然な色合いのときはホワイトバランスの設定をすることをおすすめします。

画像に特殊効果を加えて撮る

– ピクチャーエフェクト

モードダイヤル：//

画像に特殊効果を加え、メリハリをつけることができます。

1 モードダイヤルを「」または「」「」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［PFX］（P.エフェクト）、▲/▼で希望のモードを選ぶ。

ソラリ

明暗をはっきりさせたイラストのように

モノトーン

白黒に

セピア

古い写真のような色合いに

ネガアート

写真のネガフィルムのように

切

ピクチャーエフェクトを使用しない

ピクチャーエフェクトを解除するには

手順**3**で▲/▼で［切］を選びます。

静止画に日時や時刻を入れる

– 日付／時刻

モードダイヤル：/

1 モードダイヤルを「SET UP」にする。

SET UP画面が表示されます。

2 ▲/▼で［］（カメラ）、▶/▲/▼で［日付/時刻］の順に選び、▶を押す。

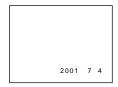
3 ▲/▼で挿入するデータの種類を選び、●を押す。

日時分

画像に撮影日と時間を挿入する。

年月日

画像に撮影年月日を挿入する。

切

画像に日付・時刻を挿入しない。

4 モードダイヤルを「」または「」にする。

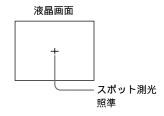
5 撮影する。

撮影時は日付や時刻は表示されません。再生時に表示されます。

ご注意

- 手順**3**で[年月日]を選んだ場合、「日付・時刻を合わせる」(12ページ)で選んだ表示順の年月日が挿入されます。
- 動画／クリップモーションでは、日付・時刻は挿入されません。

スポット測光

モードダイヤル：📷/☽/🎞

逆光のときや、被写体と背景とのコントラストが強いときでも、撮りたい被写体に露出を合わせることができます。撮りたいポイントをスポット測光照準に合わせて撮ります。

1 モードダイヤルを「📷」または「☽」「🎞」にする。

2 MENU**ボタンを押す。**

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［[●]］（スポット測光）、▲/▼で［入］を選ぶ。

スポット測光照準を撮影したいポイントに合わせます。
シャッターを軽く押し、本機の自動調節が完了したら撮影します。

スポット測光を解除するには

手順**3**で▲/▼で［切］を選びます。

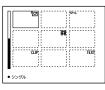
9画面表示する

– インデックス画面表示

モードダイヤル：▶

本機のズームボタンを使って、何枚かの画像を同時に見ることができます。

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 ズームWボタンを繰り返し押す。

画面表示が次のように切り換わります。

- シングル画面（1枚表示）

↓

- インデックス画面（9枚表示）

↓

- 3枚画面表示

インデックス画面で黄色の枠に囲まれていた画像が撮影時の条件とともに3枚画面表示の中央に表示されます。
コントロールボタンの▲/▼を押すと残りの撮影条件が表示されます。

画像の種類と設定により、次のマークが画像に表示されます。
🎞：動画ファイル
✉：Eメールファイル
🖨：プリントマーク
⊶：プロテクトマーク
TEXT：テキストファイル
TIFF：TIFFファイル
CLIP：クリップモーションファイル
（表示なし）：通常撮影の静止画

次（前）のインデックス画面を表示するには

コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押します。

シングル（1枚表示）画面に戻すには

- ズームTボタンを繰り返し押します。
- コントロールボタンの中央の●を押します。

応用操作　使いこなす－再生

ご注意

クリップモーションやテキストモードで撮影した画像をインデックス画面で見ると、実際の画像とは違って見える場合があります。

ちょっと一言

3枚画面表示でMENUボタンを押すと［プリント］、［プロテクト］、［削除］のメニューが表示されます。詳しくは61、63、65ページをご覧ください。もう一度MENUボタンを押すと撮影条件表示に戻ります。

静止画の一部を拡大する

– 再生ズーム／トリミング

モードダイヤル：▶

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 拡大したい画像を表示する。

3 ズームTボタンを繰り返し押して、画像を拡大する。

4 コントロールボタンを繰り返し押して、拡大部分を選ぶ。

拡大表示をやめるには

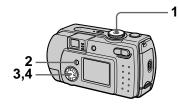
コントロールボタンの●を押します。

拡大した画像を記録する（トリミング）

① 再生ズーム後にMENUボタンを押す。

② ▶で［トリミング］を選び、●を押す。

③ ▲/▼で画像サイズを選び、●を押す。
画像が記録され、拡大前の画像表示に戻ります。

ご注意

- 動画とクリップモーションは再生ズームできません。
- テキストモードで撮影した画像は、再生ズームはできますが、トリミングできません。
- ズーム倍率は画像サイズに関係なく、元の画像の5倍までです。
- トリミングした画像は画質が劣化するおそれがあります。
- トリミングしても元の画像は残ります。
- トリミングした画像は一番新しいファイルとして記録されます。
- トリミングすると"メモリースティック"残量は減ります。
- "メモリースティック"の残量が少ない場合、トリミングできないことがあります。
- 3:2の画像サイズにトリミングすることはできません。
- 非圧縮画像(TIFF画像)はトリミングできません。

連続して再生する

– スライドショー

モードダイヤル：▶

撮影した静止画を次々に再生します。画像のチェックやプレゼンテーションに便利です。

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［スライドショー］を選び、●を押す。

下記の設定を選ぶ。

間隔設定

3秒／5秒／10秒／30秒／1分

繰り返し

入：繰り返し再生される。

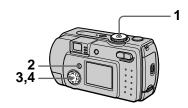
切：すべての画像が再生されると、スライドショーは終わる。

4 ▲/▼/◀/▶で［スタート］を選び、●を押す。

スライドショーが始まります。

スライドショーの設定を中止するには
手順**3**で▲/▼/◀/▶で［キャンセル］を選び、●を押します。

スライドショー再生中に中止するには
●を押して、▶で［終了］を選び、●を押します。

スライドショー再生中に画面を送り／戻すには
▶（送り）、◀（戻し）を押します。

ご注意
［間隔設定］の設定時間は目安です。再生画像のサイズなどにより、変わることがあります。

静止画を回転する

モードダイヤル：▶

カメラを縦にして撮影した画像を、回転して表示することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にして、回転させたい画像を表示する。

2 MENUボタンを押す。
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［回転］を選び、●を押す。

4 ▲/▼で「↷、↶」を選び、◀/▶で画像を回転させる。▲/▼で［実行］を選び、●を押す。

回転を中止するには
手順の**4**で▲/▼で［キャンセル］を選び、●を押します。

ご注意
- テキストモードで撮影した画像、プロテクトされている画像、非圧縮画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、アプリケーションソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

テレビで見る

モードダイヤル：▶

本機をテレビにつないで撮影した画像を再生することができます。
テレビの電源を切ってからビデオ接続ケーブルをつなぎ、もう一度電源を入れてください。

テレビ／ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする。

ビデオ接続ケーブル（付属）

VIDEO OUT端子へ

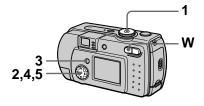
1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 ビデオ接続ケーブルで本機のVIDEO OUT端子とテレビのビデオ入力端子を接続する。

3 テレビをつけ、本機で画像を再生する。

テレビ画面に再生画像が映ります。

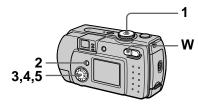
ご注意

- ビデオ端子がないアンテナ入力端子だけのテレビには接続できません。
- 静止画を見る場合、周囲に黒い枠が映ることがあります。
- 日本国内では、ビデオ出力信号（70ページ）が[NTSC]になっていないと、テレビの画面に画像が映りません。

画像を消す

ー 削除

モードダイヤル：▶

不要な画像を削除します。

シングル画面または3枚画面表示のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 シングル画面で削除するとき

◀/▶で削除したい画像を表示する。

3枚画面で削除するとき

シングル画面からズームWボタンを2回押して3枚画面にし、◀/▶で削除したい画像を表示する。

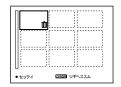
3 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

4 ◀/▶（シングル画面時）または▲/▼（3枚画面時）で［削除］を選び、●を押す。

5 ▲/▼で［実行］を選び、●を押す。

画像（3枚画面表示では中央の画像）が削除されます。

インデックス画面表示のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンでインデックス画面表示にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［[削除］を選び、●を押す。

4 ◀/▶で［全画像］または［選択］を選び、●を押す。

5 ［全画像］を選んだときは

◀/▶で［実行］を選び、●を押す。

プロテクトされていない画像がすべて削除されます。

［選択］を選んだときは

選ばれている画像の枠が緑色に変わります。

①削除したい画像をコントロールボタンで選び、●を押す。
選択を取り消すにはもう1度●を押す。削除したいすべての画像について繰り返します。
選んだ画像に🗑マークがつきます。

②MENUボタンを押す。
③◀/▶で［実行］を選び、●を押す。

削除を中止するには

手順**4**で◀/▶で［キャンセル］を、または、手順**5**で◀/▶で［終了］を選び、●を押す。

ご注意

削除したい画像のファイル名と下4桁が同じファイルが“メモリースティック”内に存在すると、同時に削除されます。

画像を保護する

– プロテクト

モードダイヤル：▶

大切な画像を誤って消さないように保護します。

ご注意

画像がプロテクトされていても“メモリースティック”をフォーマット（69ページ）すると画像はすべて消去されます。

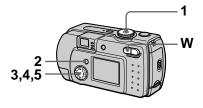
シングル画面または3枚画面表示のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 シングル画面でプロテクトをかけるとき

◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示する。

3枚画面でプロテクトをかけるとき

シングル画面からズームWボタンを2回押して3枚画面にし、◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示する。

3 MENUボタンを押す。

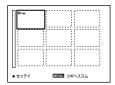
メニューが表示されます。

4 ◀/▶（シングル画面時）または▲/▼（3枚画面時）で［プロテクト］を選び、●を押す。

表示されている画像（3枚画面表示では中央の画像）にプロテクトがかかり、○━が表示されます。

プロテクト指定を解除するには

手順**4**でもう1度●を押す。○━が消えます。

インデックス画面表示のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンでインデックス画面表示にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［プロテクト］を選び、●を押す。

4 ◀/▶で［全画像］または［選択］を選び、●を押す。

5 ［全画像］を選んだときは

◀/▶で［入］を選び、●を押す。
“メモリースティック”に記録されている、すべての画像がプロテクトされます。

［選択］を選んだときは

選ばれている画像の枠が緑色に変わります。

①プロテクトしたい画像をコントロールボタンで選び、●を押す。選択を取り消すにはもう1度●を押す。プロテクトしたいすべての画像について繰り返します。
選んだ画像にO-rマークがつきます。

②MENUボタンを押す。

③◀/▶で［実行］を選び、●を押す。

プロテクト指定を解除するには

手順**4**で［全画像］を選んだときは◀/▶で［切］を選び、●を押します。［選択］を選んだときは、プロテクトを解除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、●を押します。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返します。そのあと、MENUボタンを押し、◀/▶で［実行］を選び●を押します。

プロテクトを中止するには

手順**4**で◀/▶で［キャンセル］を、または、手順**5**で◀/▶で［終了］を選び、●を押します。

画像のサイズを変える

– リサイズ

モードダイヤル：▶

撮影した画像のサイズを変更することができます。

1 **モードダイヤルを「▶」にして、サイズを変えたい画像を表示する。**

2 **MENUボタンを押す。**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［リサイズ］を選び、●を押す。**

4 **▲/▼で変更したいサイズを選び、●を押す。**
DSC-P50：
1600×1200、1024×768、640×480
DSC-P30：
1280×960、1024×768、640×480
変更した画像が記録されます。

リサイズを中止するには

手順**4**で▲/▼で［キャンセル］を選び、●を押します。

ご注意

- リサイズした後も元の画像はそのまま残ります。
- 動画やテキストモードやクリップモーションで撮影した画像と非圧縮画像はリサイズできません。
- リサイズした画像は一番新しいファイルとして記録されます。
- リサイズを行うと"メモリースティック"残量は減ります。
- 小さいサイズから大きいサイズにリサイズすると、画像が劣化します。
- "メモリースティック"の残量が足りないと、リサイズできないことがあります。
- 3:2の画像サイズにリサイズすることはできません。
- 3:2の画像をリサイズすると、リサイズ後の画像の上下に黒い帯が入ります。

プリントしたい画像を選ぶ

– プリントマーク

モードダイヤル：▶

プリントしたい画像を指定します。DPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しているお店で画像をプリントするときなどに便利です。

シングル画面または3枚画面表示のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 シングル画面でプリントマークをつけるとき

◀/▶でプリントしたい画像を表示する。

3枚画面でプリントマークをつけるとき

シングル画面からズームWボタンを2回押して3枚画面にし、◀/▶でプリントしたい画像を表示する。

3 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

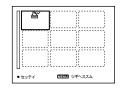
4 ◀/▶（シングル画面時）または▲/▼（3枚画面時）で［プリント］を選び、●を押す。

表示されている画像（3枚画面表示では中央の画像）に（プリント）マークがつきます。

応用操作 編集

プリントマークを消すには

手順**4**でもう1度●を押す。🖨✓（プリントマーク）が消えます。

インデックス画面表示のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンでインデックス画面表示にする。**

2 **MENUボタンを押す。**

メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［プリント］を選び、●を押す。**

4 **◀/▶で［選択］を選び、●を押す。**

プリントマークをつけるときは［全画像］を選ぶことはできません。選ばれている画像の枠が緑色に変わります。

5 **プリントしたい画像をコントロールボタンで選び、●を押す。**

選択を取り消すにはもう1度●を押します。プリントしたいすべての画像について繰り返します。選んだ画像に🖨✓マークがつきます。

6 **MENUボタンを押す。**

メニューが表示されます。

7 **◀/▶で［実行］を選び、●を押す。**

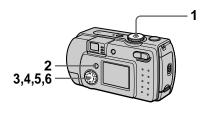
プリントマークを消すには

手順**5**でプリントマークを消したい画像をコントロールボタンで選び、●を押します。

すべての画像のプリントマークを消すには

手順**4**で◀/▶で［全画像］を選び、●を押し、さらに◀/▶で［切］を選び、●を押します。

プリントマークを中止するには

手順**4**で◀/▶で［キャンセル］を、または、手順**7**で◀/▶で［終了］を選び、●を押します。

ご注意

- 動画やテキストモードやクリップモーションで撮影した画像にはプリントマークは付けられません。
- TIFFモードで撮影した画像にプリントマークを付けると、非圧縮画像のみプリントされ、同時に記録されたJPEG画像はプリントされません。
- Eメールモードのときは、同時に記録された通常サイズの画像にプリントマークがつきます。

動画ファイルを分割する

– 分割

モードダイヤル：▶

MPEGムービーで撮影した動画を分割することができます。“ メモリースティック ”の容量がたりないときやEメールに添付するときに便利です。

1 モードダイヤルを「▶」にして、分割したい動画を表示する。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

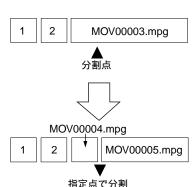
3 ◀/▶で［分割］を選び、●を押し、▲/▼で［実行］を選び、●を押します。

4 動画が再生される。

分割する場所でコントロールボタンの●を押すと、画面上に［◀II、II▶］（コマ送り、コマ戻し）、［実行］、［キャンセル］、［終了］の表示が出ます。▲/▼で［◀II、II▶］を選ぶとコントロールボタンの◀/▶を使って分割する場所の微調整ができます。

［キャンセル］を選ぶと動画の再生が再開し、分割する場所を選びなおすことができます。

5 分割する位置が決まったら、▲/▼で［実行］を選び、●を押す。

6 画面に［実行］［キャンセル］［終了］が表示される。▲/▼で［実行］を選び、●を押す。

動画ファイルの分割が始まります。

次の場合は、ファイルの分割はできません

- クリップモーションのファイル
- 静止画ファイル
- 分割できる充分な長さのない動画ファイル

分割したときのファイル番号は次のようになります

〈例〉MOV00003.mpgファイルを分割した場合、分割後のファイル番号は、MOV00004.mpgとMOV00005.mpgというようになり、MOV00003.mpgは欠番になります。分割したファイルは、最新のファイルとして保存されます。

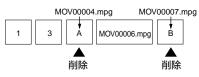
分割を中止するには

［終了］を押す。画像の再生画面に戻ります。

動画ファイルから不要な部分を削除するときは

〈例〉MOV00002.mpgファイルから不要なシーンAとシーンBを削除する場合

Step1：分割する

① 不要なシーンAを分割する

② 不要なシーンBを分割する

Step2：削除する

① 不要なシーンA､Bを削除する

② 必要なシーンだけが残る

ご注意

- クリップモーションのファイルを分割することはできません。
- 一度分割したファイルを再度統合することはできません。
- 分割前のファイルは保存されません。

いろいろな設定を変える – SET UP

下記の項目を設定するには、モードダイヤルを「SET UP」にし、コントロールボタンで項目を選びます。（■印はお買い上げ時の設定です。）

（カメラ）

項目	設定	意味
動画選択	■ MPEGムービー クリップモーション	動画の撮影モードを選ぶ（23、50ページ）。
日付/時刻	日時分 年月日 ■ 切	画像に日付や時刻を挿入するかどうか設定する（55ページ）。
デジタルズーム	■ 入 切	デジタルズームを使う（20ページ）。 デジタルズームを使わない。
赤目軽減	入 ■ 切	フラッシュ撮影時、被写体の目が赤く写るのを抑制する（21ページ）。
AFイルミネーター	■ 入 切	暗いところで被写体にフォーカスが合いにくいときに使用する（22ページ）。

（設定1）

項目	設定	意味
フォーマット	実行 キャンセル	“メモリースティック”を初期化（フォーマット）する。初期化すると、プロテクトしてある画像もふくめて、“メモリースティック”に記録されている全ての情報が消去されます。ご注意ください（80ページ）。 中止する。
ファイルナンバー	■ 連番 リセット	“メモリースティック”を取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。 “メモリースティック”ごとにファイル番号を0001から付ける。
言語/LANGUAGE	ENGLISH ■ 日本語／JPN	メニュー項目を英語で表示する。 メニュー項目を日本語で表示する。
時計設定	実行 キャンセル	時計を合わせ直す（12ページの手順❸からおこなう）。

(設定2)

項目	設定	意味
LCD明るさ	明 ■ 標準 暗	液晶画面の明るさを選ぶ。 記録される画像に影響はない。
LCDバックライト	明 ■ 標準	バッテリー使用時のみ表示される項目 液晶バックライトの明るさは「明」「標準」の内から選ぶことができる。屋外など明るい場所で使うときに「明」を選ぶと画面は明るく見やすくなるが、バッテリーの消耗は早くなる。
お知らせブザー	シャッター ■ 入 切	シャッターボタンを押したとき、シャッター音が鳴る。 コントロールボタン／シャッターボタンを押したときなどに、ブザー／シャッター音が鳴る。 音は鳴らない。
ビデオ出力信号	■ NTSC PAL	ビデオ出力信号をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。 ビデオ出力信号をPALモードに設定する（欧州など）。
USB接続	PTP ■ 標準	USB接続方法を選ぶ（27ページ）。
パワーセーブ	■ 入 切	バッテリー使用時のみ表示される項目。 電源に電池を使用する場合、「入」にすることで電池を長持ちさせる。 パワーセーブを「入」にするとシャッターを押してから記録されるまで通常より時間がかかる（8、86ページ）。 フラッシュチャージ中は液晶画面が消える。
デモモード	■ 入/スタンバイ 切	外部電源使用時のみ表示される項目。お買い上げ時は、[スタンバイ]に設定されている。電源を入れ、モードダイヤルを「」または「」にしたまま約10分放置すると、デモンストレーションが始まる。電源を切ると終了する。

時計設定のご注意

- 撮影時は日付や時刻は表示されません。再生時に表示されます。
- 動画／クリップモーションでは、日付・時刻は挿入されません。

使用上のご注意

お手入れについて

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

表面のお手入れについて

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください 。

海岸やほこりの多い場所で使ったあとは

カメラをよく清掃してください。潮風で金属が腐食したり、砂ぼこりが内部に入ったりすると故障の原因になります。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0°C～40°Cです。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側についた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切に関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。
充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

充電方法

本機を別売りACパワーアダプターを使ってコンセントにつなぐか、新しい電池または充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切」にして24時間以上放置する。

“ メモリースティック ” について

“ メモリースティック ”は、小さく軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。
“ メモリースティック ”には、一般の“ メモリースティック ”、著作権保護技術（マジックゲート*）を搭載した“ マジックゲート メモリースティック ”の2種類があります。
本機では“ マジックゲート メモリースティック ”と一般の“ メモリースティック ”のどちらもご使用いただけます。ただし、本機はマジックゲート規格に対応していないため、本機で記録したデータは著作権の保護の対象にはなりません。

*“ マジックゲート ”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。

ご注意

- データの読み込み中、書き込み中には“ メモリースティック ”を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  - 読み込み中、書き込み中に“ メモリースティック ”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  - 静電気やノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- ラベル貼り付け部には専用ラベル以外は貼らないでください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。

“ Memory Stick ”（“ メモリースティック ”）、MEMORY STICK TM、“ MagicGate Memory Stick ”（“ マジックゲート メモリースティック ”）および MG はソニー株式会社の商標です。
“ マジックゲート ”および“ MAGICGATE ”はソニー株式会社の商標です。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリー（別売り）について

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

別売り“ インフォリチウム ”バッテリーは、本機や別売りACアダプター／チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
“ インフォリチウム ”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。別売りACアダプター／チャージャーを使用すると、使用可能時間や充電終了時間も計算して表示します。

充電について

- 本機をご使用になる前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10〜30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- CHGランプが消える（満充電）まで充電して下さい。
- 充電終了後は、ACパワーアダプターを本機のDC IN端子から抜くかバッテリーを取りはずしてください。

バッテリーの上手な使い方

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて暖かくしておき、撮影の直前、本機に取りつけることをおすすめします。
- 液晶画面の使用やズーム撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 本機で撮影または再生中は、こまめに電源スイッチを切るようにしてください。
- 撮影には予定撮影時間の2〜3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安としてお使いください。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。
  本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、「スライドショー再生」にして電源が切れるまでそのままにしてください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、セット底面にあるリセットボタンを押してください（この操作をおこなうと、日時の設定は解除されます）。それでも正常に戻らないときは、デジタルスチルカメラテクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。**液晶画面に「C：□□：□□」のような表示が出たときは自己診断表示機能が働いています。80ページをご覧ください。**

症状	原因	処置
POWERボタンを押しても電源が入らない。	ー	電源を入れるにはPOWERボタンを1秒程度押してください。
操作を受け付けない。	バッテリーが残り少ない（表示が出る）。	電池を交換する、またはバッテリーを充電する（7、9ページ）。
	ACパワーアダプターがしっかり差し込まれていない。	DC IN端子とコンセントにしっかり差し込む（9、11ページ）。
	内部システムの誤動作。	電源を切り、1分後に電源を入れて、正しく動作するか確認する。本機底面のRESETボタンをピンなど先のとがったもので押す。
撮影ができない。	ストロボ充電中は撮影できない。	ー
	モードダイヤルが「▶」または「SET UP」になっている。	それ以外にする（16、23ページ）。
	" メモリースティック "が入っていない。	" メモリースティック "を入れる（14ページ）。
	" メモリースティック "の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	" メモリースティック "の誤消去スイッチを解除する。
電源を入れても液晶画面がつかない。	前回使用時、液晶OFFで電源を切った。	本機は最後に使用したときの設定を保持します。液晶画面OFFで電源を切ると、次に使うときも液晶画面はOFFのままです。
フォーカスがあっていない。	3 cm～25 cmで撮影するときに、マクロ撮影になっていない。	マクロ撮影にする（52ページ）。
	フォーカスプリセットになっている。	自動調節に戻す（51ページ）。

症状	原因	処置
リサイズができない。	動画、テキスト画像、クリップモーション画像はリサイズできない。	―
テキストモードで撮影した画像が不鮮明。	被写体に均等に光が当たっていない。	均等に光があたるように調節する。
テキストモードで撮影できない。	モードダイヤルが「」になっている。	「」にする。
プリントマークが付かない。	動画、テキスト画像、クリップモーション画像にはプリントマークを付けることができない。	―
ノイズが入る。	テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。	テレビなどから離して置く。
画像が暗い。	逆光になっている。	画像の明るさを調節する(53ページ)。
	液晶画面が暗い	液晶画面の明るさを調節する(70ページ)。
フラッシュ撮影ができない。	設定がになっている。	(表示なし)またはに設定する(21ページ)。
	モードダイヤルが「」になっている。	にする。
	モードダイヤルが「▶」、または「SET UP」、「」(MPEGムービー)になっている。	「」にする。
正しい撮影日時が記録されない。	日付・時刻を合わせていない。	日付・時刻を合わせる(12ページ)。
明るい被写体を写すと、縦に尾を引いたような画像になる。	スミアという現象で、故障ではない。	―
電池または"インフォリチウム"バッテリーの消耗が早い。	温度が極端に低いところで撮影/再生している。	―
	バッテリーの充電が不充分。	満充電する。
	電池またはバッテリーそのものの寿命。	新しい電池、またはバッテリーと交換する(7ページ)。
	推奨の電池以外の電池を使っている。	推奨の電池を使う(8、86ページ)。

症状	原因	処置
バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。（"インフォリチウム"バッテリー使用時）	温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。	―
	バッテリーそのものの寿命。	新しいバッテリーと交換する（73ページ）。
	バッテリーが消耗している。	充電された"インフォリチウム"バッテリーを取り付ける（7、9ページ）。
	残量表示機能と実際の残量にズレが生じた。	バッテリーを満充電する。残量表示機能が正しくなる（9ページ）。
"インフォリチウム"バッテリーを充電できない。	本機の電源が入っている。	電源を切る（9ページ）。
"インフォリチウム"バッテリー充電時、/CHGランプが点滅する。	バッテリーが正しく取り付けられていない。	正しく取り付ける（7ページ）。
	バッテリーが故障している。	テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（80ページ）
デジタルズームが効かない。	MPEGムービーで動画撮影中またはLCD OFF時はデジタルズームが使えない。	―
	デジタルズームが「切」になっている。	「SET UP」でデジタルズームを「入」にする。
再生ができない。	モードダイヤルが「」、「」または「」になっている。	「▶」にする（25、26ページ）。
パソコンで再生すると画像が途切れる。	"メモリースティック"から直接再生している。	パソコンのハードディスクにコピーをして、ハードディスクのファイルを再生する（32ページ）。
パソコンで再生できない。	―	パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
画像を消去できない。	プロテクトされている。	プロテクトを解除する（63ページ）。
電源が途中で切れる。	なにも操作しない状態が3分以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れる。	オートパワーオフ（8ページ）が機能している。再度電源を入れる。
	バッテリーが消耗している。	電池を交換するか充電された"インフォリチウム"バッテリーを入れる。

症状	原因	処置
テレビに画像が出ない。	本機のビデオ出力信号の設定が[PAL]になっている。	[NTSC]にする(70ページ)。
ファイルを再生するとファイルエラーになる。	画像サイズが1600×1200(DSC-P50)または1280×960(DSC-P30)より大きい。	ー
画像が白黒になる。	テキストモードになっている。	解除する(48ページ)。
	ピクチャーエフェクトのモノトーンモードになっている。	解除する(55ページ)。
パソコンとUSB接続ができない。	バッテリーが残り少ない。	ACパワーアダプター(別売り)を使用してください(11ページ)。
	本機の電源が入っていない。	電源を入れる。
	USBケーブルがしっかり差し込まれていない。	一度パソコンと本機からケーブルを抜いて、しっかりと差し込み、「USBモード」になっていることを確認する(30、31ページ)。
	「SET UP」でUSB接続が[PTP]になっている。	[標準]にする。
	パソコンのUSB端子に本機の他に機器が接続されている。	キーボード／マウス以外は取り外してみてください。
	USBドライバがインストールされていない。	USBドライバをインストールする(29ページ)。
	付属のCD-ROMから「USBドライバ」をインストールする前に、USBケーブルで本機とパソコンを接続したため、ドライバが正しく認識されていない。	正しく認識されなかったドライバを削除してから、USBドライバをインストールする。詳しくは78ページの手順にしたがってください。
電源が入っているのに操作できない。	ー	バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを取り付け、電源を入れる。これでも操作できないときは、本機底部のRESETボタンを芯が出ていないシャープペンシルなど先のとがったもので押す。(この操作をすると日時の設定が解除されます。)

Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000 ProfessionalとUSB 接続ができない場合のUSBドライバの再インストールのしかた

手順は省略せずに、すべて行ってください。

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。

2 付属の専用USBケーブルで、本機のUSB端子とパソコンのUSB端子を接続する。

3 本機に“ メモリースティック ”を入れる。

4 ACアダプターを接続して本機の電源を入れる。

5 パソコンの［デバイスマネージャ］を開く。

Windows 98、Windows 98SE、Windows Meをお使いの場合：

① デスクトップ画面の［マイコンピュータ］から［コントロールパネル］を開き、［システム］をダブルクリックする。

② システムプロパティが表示されるので、上部の［デバイスマネージャ］のタブをクリックする。

③［その他のデバイス］の中の［Sony DSC］をクリックして右下の［削除（E）］ボタンをクリックする。

Windows 2000 Professionalをお使いの場合：

* AdministratorまたはAdministrator権限のユーザーIDからログインする。

① デスクトップ画面の［マイコンピュータ］から［コントロールパネル］を開き、［システム］をダブルクリックする。

② システムプロパティが表示されるので、上部の［ハードウェア］のタブをクリックして、［デバイスマネージャ（D）］ボタンをクリックする。

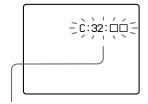
③ デバイスマネージャの［表示］をクリックして、［デバイス（種類別）（E）］をクリックする。

④［その他のデバイス］の中の［Sony DSC］を右クリックして、［削除（E）］をクリックする。

6 デバイス削除の確認画面が表示されたら、「OK」ボタンをクリックする。

7 本機の電源を切ってからUSBケーブルを取りはずし、パソコンを再起動する。

8 付属のCD-ROMのUSBドライバーを29ページの手順でインストールする。

警告表示について

液晶画面には次のような表示が出ます。説明にしたがってチェックしてください。

表示	意味
メモリースティックがありません	"メモリースティック"が入っていない。
システムエラー	電源を入れ直す。
メモリースティックエラー	● 本機では使えない"メモリースティック"が入っている。 ●"メモリースティック"が壊れている。 ●"メモリースティック"が正しく挿入されていない。
フォーマットエラー	"メモリースティック"が正しくフォーマットされていない。
メモリースティックがロックされています	"メモリースティック"の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。
メモリースティックの残量がありません	"メモリースティック"がいっぱいで、記録できない。
ファイルがありません	画像が記録されていない。
ファイルエラー	画像再生時の異常。
ファイルがプロテクトされています	画像に誤消去防止がかけられている。
ディレクトリエラー	"メモリースティック"内に同じディレクトリが存在する。
画像サイズオーバーです	本機で再生できないサイズの画像を再生しようとしている。
無効な操作です	本機以外で作成したファイルを再生しようとしている。
	バッテリーの残量が少ない。 ご使用状況や電池やバッテリーの種類によっては、バッテリー残量が5分から20分でも点滅することがあります。
分割できません	● 分割できる充分な長さがない。 ● 動画ではない。
	● 光量が不足している。 ● シャッタースピードが遅く設定されている。 （三脚などでカメラをしっかりと固定する。）

自己診断表示 ー アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。これは本機に異常が起きたときに液晶画面にアルファベットと4桁の数字でお知らせする機能です。表示によって、異常の内容が分かるようになっています。
詳しくは以下の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。
表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

自己診断表示

- 「C:□□:□□」
  お客さま自身で対応できる内容
- 「E:□□:□□」
  デジタルスチルカメラテクニカルインフォメーションセンターに相談していただく内容（裏表紙をご覧ください）

表示	原因	対応のしかた
C:32:□□	ハードウェアの異常。	電源を入れ直す。
C:13:□□	フォーマットしていない“メモリースティック”を入れた。	フォーマットする（69ページ）。
	本機では使えない“メモリースティック”を入れた。 データが壊れている。	“メモリースティック”を交換する（14ページ）。
	データが読めない／書けない。	“メモリースティック”を数回抜き挿しする。
E:92:□□	ACアダプターを使用時に“インフォリチウム”バッテリーを抜き挿しした。	一度電源を切り、再度入れなおす。
	お客さま自身では対応できない症状が起きている。	テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。その際、サービス番号の5桁のすべてをお知らせください。（例：E:92:10）
E:61:□□ E:91:□□	お客さま自身では対応できない症状が起きている。	テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。その際、サービス番号の5桁のすべてをお知らせください。（例：E:61:10）

お客様ご自身で対応できる症状の場合でも、「対応のしかた」を2、3度繰り返しても正常に戻らないとき、または本体底部のリセットボタンを押してもリセットされないときは、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

主な仕様

システム

撮像素子
6.64mm（1/2.7型）カラーCCD

レンズ
3倍ズームレンズ
f=6.4～19.2 mm（35 mmカメラ換算では41～123 mm）
F3.8～3.9

露出制御
自動

ホワイトバランス
自動、屋内、屋外、ホールド

データ方式
動画　MPEG1
静止画　JPEG、GIF（テキストモード、クリップモーション時）、TIFF

記憶媒体
“ メモリースティック ”

フラッシュ
ISO感度がオートのとき
推奨撮影距離 0.3 m～2.0 m

出力端子

VIDEO OUT端子
ミニジャック
映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負

USB端子
mini-B

液晶画面

使用液晶パネル
3.8cm（1.5型）TFT（薄膜トランジスタアクティブマトリックス）駆動

総ドット数
123 200（560×220）ドット

電源・その他

使用バッテリー
単三型アルカリ電池（2本）、3V
NP-FS11、3.6V

消費電力（撮影時）
2.8 W

動作温度
0 ℃～ ＋40 ℃

保存温度
–20 ℃ ～ ＋60 ℃

最大外形寸法
126×61.2×53.7 mm
（幅×高さ×奥行）

本体質量
約260 g（電池（2本）、“ メモリースティック ”、レンズキャップなど含む）

ACパワーアダプター AC-LS1（別売）

電源
AC100－240 V、50/60 Hz

定格出力
DC4.2 V、1.5 A

動作温度
0 ℃ ～ ＋40 ℃

保存温度
–20 ℃ ～ ＋60 ℃

最大外形寸法
105×36×56 mm
（幅×高さ×奥行き）
（最大突起部をのぞく）

本体質量
約180 g（本体のみ）

バッテリーNP-FS11（別売り）

使用電池
リチウムイオン蓄電池

最大電圧
DC4.2 V

公称電圧
DC3.6 V

容量
4.1 Wh（1 140 mAh）

付属品

VIDEO接続ケーブル（1）
単三型アルカリ電池（2）
USBケーブル（1）
レンズキャップ（1）
レンズキャップ用ひも（1）
リストストラップ（1）
“ メモリースティック ”（4 MB）（1）
CD-ROM（2）（USBドライバSPVD-004）
ピクチャーパラダイスクラブ（体験版）（“ プレイステーション 2 ”専用ソフト）CD-ROM（1）
取扱説明書（1）
取扱説明書（パソコン取込み編）（1）
安全のために（1）
保証書兼カスタマーご登録はがき（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラや“メモリースティック”などの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“故障かな？と思ったら”の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

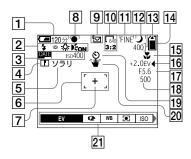
保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

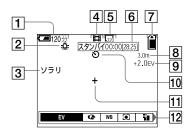
この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品はご同意をいただいたうえで回収させていただきますので、ご協力ください。

部品の保有期間について

当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

海外で使うとき

本機は海外でもお使いになれます

別売りのACパワーアダプターAC-LS1は AC 100 V〜240 V・50/60 Hzの広範囲な電源でお使いいただけます。
ただし、電源コンセントの形状の異なる国または地域では、電源コンセントに合った変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧機（トラベル・コンバーター）はご使用にならないでください。故障の原因となります。

画面表示

静止画撮影時

1 **バッテリー残量表示**

2 **フラッシュモード**

赤目軽減

ホワイトバランス表示

AFイルミネーター表示

3 **日付／時刻表示**

ISO感度

4 **シャープネス表示**

5 **ピクチャーエフェクト表示**

6 **AF測距枠**

7 **スポット測光照準**

8 **AE/AFロック表示**

9 **撮影モード表示**

10 **画像サイズ表示**

11 **画質表示**

12 **夜景モード表示**

13 **撮影残枚数表示／自己診断表示**
撮影残枚数は撮影状況によっては画面上の数値と異なる場合があります。

14 **“ メモリースティック ”残量表示**

15 **マクロ／フォーカスモード表示／フォーカスプリセット値**

16 **EV補正表示**

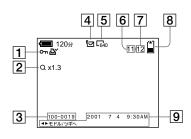
17 **絞り値表示**

18 **シャッタースピード表示**

19 **セルフタイマー表示**

20 **手ぶれ警告表示**

21 **メニュー／ガイドメニュー**
MENUボタンを押すと表示／非表示が切りかわる。

その他

動画撮影時

1 **バッテリー残量表示**

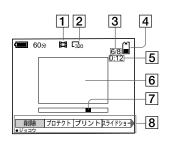
2 **ホワイトバランス表示**

3 **ピクチャーエフェクト表示**

4 **撮影モード表示**

5 **画像サイズ表示**

6 **記録時間[最大記録可能時間]表示／自己診断表示**

7 **" メモリースティック "残量表示**

8 **マクロ／フォーカスモード表示／フォーカスプリセット値**

9 **EV補正表示**

10 **セルフタイマー表示**

11 **スポット測光照準**

12 **メニュー／ガイドメニュー**
MENUボタンを押すと表示／非表示が切りかわる。

静止画再生時

1 プロテクト表示／プリントマーク表示

2 ズーム表示

3 ファイル名

4 撮影モード表示

5 画像サイズ表示

6 画像番号

7 “ メモリースティック ”記録枚数

8 “ メモリースティック ”残量表示

9 画像の記録日時表示／メニュー／ガイドメニュー

動画再生時

1 撮影モード表示

2 画像サイズ表示

3 画像番号／“ メモリースティック ”記録枚数

4 “ メモリースティック ”残量表示

5 カウンター

6 再生画像

7 再生バー

8 メニュー／ガイドメニュー

その他

電池でご使用になる際のご注意

パワーセーブモードについて

本機の電源に単三型アルカリ電池をご使用になる場合は、[SET UP]でパワーセーブモードを「入」にしてください。静止画撮影時に電池を効率よく使い、長持ちさせることができます。

パワーセーブモードを「入」にすると

- フラッシュ充電中(⚡/CHGランプが点滅中*)は、液晶画面が消えます。長期間放置後の最初の電源オン時は、フラッシュの充電時間が長くなります。
  * 充電時間が短いと、⚡/CHGランプが点灯しない場合があります。
- パワーセーブモードを「切」にした場合と比べ、シャッターを押してから画像が記録されるまでの時間がやや長くかかります。
- AF時でも、シャッター半押し時以外はフォーカスは合いません。

パワーセーブモードは

- 工場出荷時、「入」に設定されています(70ページ)。
- 別売りの“インフォリチウム”バッテリー(NP-FS11)をご使用の場合でも有効ですが、[SET UP]でパワーセーブモードを「切」にすると、より快適に撮影できます。

撮影時間をさらに長持ちさせるには

- 液晶画面を消してファインダーで撮影してください。
- 撮影状況の光量が充分な場合、フラッシュを⊛発光禁止にしてください。

単三型電池の取り扱いに関するご注意

- 本機を使用した直後は、電池が熱くなっている場合があります。温度が下がるのを待ってから取り出してください。
- 本機を長期間使用しないときは、電池を取り出してください。
- 電池を分解したり、金属などでショートさせたり、熱源または熱源の近くに置かないでください。
- 電池を交換するときは、必ず2個同時に交換してください。新しいものと古いもの、またアルカリ電池とニッケル水素電池など、異なったタイプの電池を同時に使用しないでください。

対応バッテリーは

- “インフォリチウム”バッテリー(NP-FS11)(推奨・別売り)
- 単三型アルカリ電池(2本)
- 単三型ニッケル水素電池(2本)(別売り)
- 単三型ニッカド電池(2本)(別売り)

ご注意

- 単三型アルカリ電池をご使用のときは、ソニー製スタミナアルカリ電池をお使いください。他の電池では、本機の性能が充分に発揮できない場合があります。
- 低温の環境で本機をご使用になる場合は、別売りの“インフォリチウム”バッテリー(NP-FS11)をご使用ください。アルカリ電池は低温下では著しく電池性能が落ちるため、ご使用になれません。
- ニッケル水素電池やニッカド電池をご使用のとき、電池残量が正しく表示されない場合があります。
- マンガン電池、一次リチウム電池はご使用になれません

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット順

その他

カスタマー登録のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

ソニーではデジタルスチルカメラをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマー登録」をお勧めしています。
詳しくは同梱の「カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

■ カスタマー登録および登録内容の変更はこちらのホームページから：
http://www.sony.co.jp/di-regi/

カスタマー登録に関する問い合わせ
ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク
電話： **03-5977-7255**
受付時間：月〜金曜日　午前10時〜午後6時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■ デジタルイメージングカスタマーサポート
デジタルスチルカメラとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。
http://www.sony.co.jp/support-di/

■ テクニカルインフォメーションセンター
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。
電話： **0564-62-4979**
受付時間：月〜金曜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

D-Imaging World (デジタルイメージングワールド)
デジタルスチルカメラやハンディカムを楽しく使っていただくためのホームページです。
http://www.sony.co.jp/di-world/

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

この説明書は再生紙を使用しています。

Printed in Japan

306818603